

# 研究者総覧

2 0 0 2



新潟国際情報大学  
Niigata University of International and Information Studies



# 研究者総覧



2 0 0 2



# 新潟国際情報大学の教育研究者総覧について

本学は平成6年春に開学致しました。平成3年から大学設置基準の大綱化が始まりましたから、まさに21世紀に向けて開学した大学と言えます。創設前には二学部の設置を考えておりましたが、創設の理念と目的から、一学部二学科の構成で発足しました。日本における文化、社会に対する理解と認識を基に、国際的視野を持ち国際化、情報化された社会で役立つ、意欲あり、健全で個性豊かな人材を育成することを目的としております。即ち、情報文化学部のもとに情報文化学科と情報システム学科があります。とくに情報文化学科では、実際的な英語の習得と情報システムの学習のほか、英語、中国語、韓国語、ロシア語の何れか一カ国語を約半年間の留学も加えて習得し、異文化をわが国の文化と対比しつつ理解し、社会で役立つ人物を養成すべく努力し、一方、情報システム学科では英語の濃厚な学習と共に、グローバルに構築されつつある情報システムの理論と實際を会得し、その社会各分野における応用を学び、その能力を十分に活用しうる人物を養成すべく努力しております。また両学科において、教養教育と少人数教育により、心温かく、人間性豊かな社会人を育てるべく力を注いでおります。

このような大学の目的を完遂するために相応しい教員、職員の人達が集って、開学し今日に至りました。そして開学以来、満8年を経過して、定年退官の教員の方も出て来ましたが、新任の教員も増え、新しい息吹も感じられます。大学の教育、研究の分野が大変広いことは申すまでもありませんが、本学は総合大学ほど規模は大きくありませんので、ある程度焦点を絞って学生教育を行う事ができます。それだけに教員の人達の専攻も絞られているところがありますが、大学の標榜から見られる如く、企業人としての大変貴重なキャリアを持って赴任された教員の人が多いのも特徴でありましょう。またそれぞれ中国、韓国、ロシア、米国の出身の教員の人達は日本語も普通に話しています。学生にとって大変恵まれた教員構成ではないかと思えます。

このような貴重な経歴を持つため、新潟県内外の諸大学の非常勤講師、県内官公庁の委員会委員、企業などの相談役、県や県内市町村の生涯学習や講演会の講師などを務める教員の人達も多いのであります。勿論、本学独自の講演会や講習会も開催いたしており、社会に向かって開いた門戸をもっと広げたいと考えております。この研究者総覧が本学の教員



同士がお互いを知るため、また職員や学生が教員の人達を知るのに役立つ事は申すまでもありませんが、それよりも、他大学や高等学校の教職員の方々と、県内外の企業や官公庁などの沢山の方々に本学の教員の人達を知って頂きたいと思うのであります。本書の意図するところをご理解頂ければ幸いです。本書をご覧頂き、ご希望やご質問があれば、遠慮無く本学宛にご連絡頂きたいと存じております。

2002年4月

新潟国際情報大学長 武藤輝一

[illegible]

## 目 次

学長	5
情報文化学科	8
市岡 政夫	10
區 建英	11
小澤 治子	12
原口 武彦	13
アレクサンドル プラーソル	14
臼井 陽一郎	15
越智 敏夫	16
小林 元裕	17
澤口 晋一	18
申 銀珠	19
高橋 正樹	20
グレゴリー ハドリー	21
広瀬 貞三	22
矢口 裕子	23
安藤 潤	24
熊谷 卓	25
佐々木 寛	26
長坂 格	27
デービッド ジェフリー	28
ニコラ ハットン	29
情報システム学科	30
赤木 敏子	32
大竹 康夫	33
苅部 恒徳	34
近藤 進	35
正田 達夫	36
高木 義和	37
竹並 輝之	38
槻木 公一	39
永井 武	40
藤瀬 武彦	41
宗澤 拓郎	42
渡辺 忠	43
安達 巧	44
石井 忠夫	45
桑原 悟	46
塚田 真一	47
樋口 光明	48
松井 孝雄	49
山口 直人	50
大山 毅	51
河原 和好	52
小宮山 智志	53
佐々木 桐子	54



学 長

氏 名	ムトウ テルカズ 武藤 輝一 MUTO Terukazu
性 別	男
生 年 月 日	1929年8月5日生
職 名	学長（2000年4月）
連 絡 方 法	E-mail : muto@nuis.ac.jp
学 歴	1954年 新潟大学新潟医科大学医学科卒業 1959年 新潟大学大学院医学研究科博士課程修了
学 位	医学博士（新潟大学、1959年3月）
職 歴	1970年10月～1992年9月 新潟大学医学部教授 1987年 6月～1989年6月 新潟大学医学部付属病院長 1989年10月～1992年1月 新潟大学医学部長 1992年 2月～1998年1月 新潟大学長 1998年 4月～2000年3月 長岡赤十字病院長
受 賞 歴	第35回新潟日報文化賞（1982年）

研究分野

消化器外科学、外科学一般

1.消化器癌の外科

キーワード：消化器外科、癌

2.外科領域における代謝と栄養

キーワード：外科、代謝、経静脈栄養、経腸栄養

主要業績

著書

- ①『新外科学体系』30巻・52冊、編集・執筆、東京、中山書店、1993年1月
- ②『標準外科学』第1版－第8版、監修・編集・執筆、東京、医学書院、1976年6月－1998年5月

論文

- ①「Isopower maps of the electrogastrogram(EGG) after total gastrectomy or total colectomy」 Neurogastroenterology and Motility 11巻6号、441－448頁、1999年6月（共著）
- ②「温故知新－日本における静脈経腸栄養研究」 静脈経腸栄養 14巻2号、3－11頁、1999年10月（単著）
- ③「20世紀における外科の展開」日本外科学会誌 101巻3号、269－273頁、2000年3月（単著）
- ④「消化管のすべて－癌と遺伝子、移植などを含めて」病栄協ガイドブック「消化管のすべて－胃・腸－」1－9頁、日本栄養士会、全国病院栄養士協議会出版、2000年3月（単著）
- ⑤「消化器の病気－遺伝子診断及びピロリ菌」 学術の動向 5巻5号、50－52頁、2000年5月（単著）
- ⑥「これからの外科系専門医制度」日本外科学会誌 102巻3号、291－293頁、2001年3月（単著）
- ⑦「21世紀での胃癌撲滅に向けて」学術の動向 6巻12号、86－88頁、2001年12月（単著）

所属学会

日本外科学会、日本消化器外科学会、日本消化器病学会  
日本外科代謝栄養学会、日本静脈・経腸栄養学会  
日本小児外科学会、日本癌治療学会

その他

第17期、第18期日本学術会議会員（1997年7月～2003年7月）



# 情報 文化学科

---

市岡 政夫

區 建英

小澤 治子

原口 武彦

アレクサンドル プラーソル

臼井 陽一郎

越智 敏夫

小林 元裕

澤口 晋一

申 銀珠

高橋 正樹

グレゴリー ハドリー

広瀬 貞三

矢口 裕子

安藤 潤

熊谷 卓

佐々木 寛

長坂 格

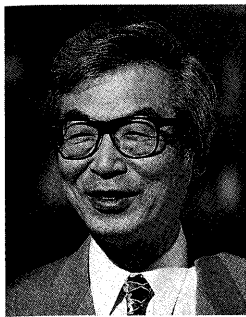
デービッド ジェフリー

ニコラ ハットン









氏名	イチオカ マサオ 市岡 政夫 ICHIOKA Masao
性別	男
生年月日	1939年12月14日生
職名	教授（1994年4月）・学生部長
連絡方法	E-mail：ichioka@nuis.ac.jp
学歴	1963年 早稲田大学第一文学部露文専修卒業
学位	文学学士（早稲田大学、1963年3月）
職歴	1992年～1994年 新潟市国際文化部長 1993年～1995年（財団法人）環日本海経済研究所所長
研究分野	環日本海圏の一地域でもあるロシア極東。日・ロ関係の主要な舞台は常に極東の地にあった。それにも拘わらず、極東に関する研究に対しては、これまで必ずしも大きな関心が払われてきたとは言えない。日・ロ関係が大きく転換しようとしている今日、極東研究は日・ロ双方にとってますますその重要性を増している。また、戦後の日・ロ（ソ）関係のなかで見過ごすことができないのが、いわゆる民間外交である。特に、この分野で新潟が果たしてきた役割は小さくない。新潟を中心とする自治体の国際交流についても、環日本海圏構築の立場から研究を続けていきたい。
主要業績	<b>著書</b> ①『自治体の国際交流』（共著）（学陽書房、1984年） ②『自治体の国際政策』（共著）（学陽書房、1988年） ③『入門ロシア極東生情報』（共著）（テレビ新潟放送網、1996年） ④『自治体外交』（単著）（日本経済評論社、2000年） <b>論文</b> ①「日本海を囲む輪を」（世界 1991年3月） ②「環日本海経済圏の主役は新潟」（エコノミスト 1991年5月） ③「環日本海経済圏の将来像」（世界経済評論 1995年4月） ④「環日本海の外資導入」（ユーラシア研究 1997年1月）
所属学会	ロシア東欧学会 日本ロシア文学会 環日本海学会
その他	モスクワ国立大学留学 ロシア語教授法（1967～1968年） 極東国立総合大学準教授 ロシア極東（1991～1992年）



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴

オウ ケンエイ  
區 建英 OU Jianying

女

1955年10月27日生

教授（1998年4月）

E-mail : ou@nuis.ac.jp

1982年 広州外国語大学 日本語文学科卒業

1984年 北京師範大学歴史学系修士課程卒業（文学修士）

1993年 東京大学総合文化研究科博士課程修了

学 位  
職 歴

博士（文学、東京大学、1993年3月）

1984～1993年（中国）暨南大学歴史学部専任講師

1988～1995年 学習院大学文学部兼任講師

1993～1994年 東京大学教養学部客員研究員

1994～1997年 新潟国際情報大学助教授

研究分野

中国の民主化と多民族社会。中国は発展途上国として、また多民族国家として様々な苦悩を抱えている。私は主として、近代中国の民主化と民族のあり方に関する思想や論理の変化を解明し、これによって、現代中国社会のあり方を規定する諸要因を把握したい。その手がかりとして研究している中国の思想家は厳復である。また、比較研究という視点から、福沢諭吉の思想をはじめ日本近代思想を研究している。同時に、グローバリゼーションにおける中国の思想や論理の変遷にも注目していきたい。

主要業績

著書

- ①『日本的市民社会』（監修）（新世紀出版社 1992年）
- ②『福沢諭吉と日本近代化』原著者・丸山眞男（編集・翻訳）（学林出版社 1992年）
- ③『近代日本と東アジア』（共著）（筑摩書房 1995年）
- ④『最新教科書・現代中国』（共著）（柏書房 1998年）
- ⑤『中国における福沢諭吉理解』（日本歴史学会編 日本歴史 1992年2月号）
- ⑥『福沢諭吉研究と丸山眞男』（みすず書房 みすず 1992年10月号）
- ⑦『励みと悲しみ——近代中国と日本』（岩波書店 世界 1995年3月号）
- ⑧『丸山眞男における国民国家と永久革命』（歴史学研究会編 歴史学研究 1998年3月号）
- ⑨『中国における進化論の受容——厳復の天演論を中心に』（新潟国際情報大学情報文化学部紀要 第2号1999年3月）
- ⑩『厳復の政治学における国家理論』（慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第17巻）
- ⑪『厳復の老荘注釈における意味』（慶應義塾福沢研究センター 近代日本研究 第18巻）

所属学会

中国社会文化学会・アジア政経学会・政治思想学会

中国・中国日本史学会（理事）

アメリカ・American Political Science Association

そ の 他

1986年に東京大学大学院で近代日本思想を研究するために来日。以後同大学院で研究するかたわら、学習院大学で兼任講師をつとめ、また慶應義塾福沢研究センター、東京大学教養学部の客員研究員を兼務した。



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
学 位  
職 歴

オザワ ハルコ  
小澤 治子 OZAWA Haruko  
女

1956年4月27日生

教授（1999年4月）・情報文化学科長

E-mail : haruko@nuis.ac.jp

1979年 上智大学外国語学部ロシア語学科卒業

1986年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学

法学博士（慶應義塾大学、2000年3月）

日本国際問題研究所ロシア研究センター研究員

1996年 新潟国際情報大学助教授

研 究 分 野

主な研究分野は、20世紀の日ソ・日ロ関係の歴史を東アジアの国際関係の中で考察することである。特に1917年のロシア革命、また第2次世界大戦、さらにはペレストロイカからソ連解体にいたる時期に関心をもって研究を進めてきた。

主 要 業 績

著書

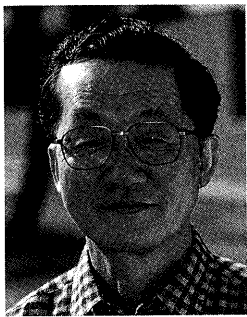
- ①『ロシアの対外政策とアジア太平洋——脱イデオロギーの検証』（単著）（有信堂、2000年）
- ②『日本の岐路と松岡外交——1940～41年——』（共著）（南窓社、1993年）
- ③『アジアの中の日本と中国——友好と摩擦の現代史』（共著）（山川出版社、1995年）

論文

- ①「ソビエト政権初期の対日政策（1917.11～1921.8）——対米政策との関連で」（慶應義塾大学法学研究会法学研究第63巻第2号、1990年2月）
- ②「ゴルバチョフ政権と日米関係——安保条約容認をめぐる対日政策形成機構の認識を中心に」（ソ連研究第11号、1990年10月）
- ③「ソ連における日本軍国主義観——ブレジネフからゴルバチョフへ——」（外交時報第1276号、1991年3月）
- ④「真珠湾とソ連外交——1941年日本をめぐる米ソ関係」（軍事史学第27巻第2・3合併号、1991年12月）
- ⑤「ワシントン会議とソビエト外交——極東共和国の役割を中心に」（政治経済史学第307号、1992年1月）
- ⑥「アメリカ国務省の対ソ認識（1917.11～1918.7）——駐ロシア大使フランスの役割を中心に」（慶應義塾大学法学研究会法学研究第66巻第2号、1993年2月）
- ⑦「モスクワと極東、アジア・太平洋——ロシアの対外政策路線の一考察」（外交時報第1302号、1993年10月）
- ⑧「ペレストロイカとソ連のアジア・太平洋観」（ロシア研究第18号、1994年4月）
- ⑨「冷戦構造崩壊後のロシアの対外政策——中東欧の位置づけを軸に」（慶應義塾大学法学研究会法学研究 第67巻第12号、1994年12月）
- ⑩「NATO拡大問題とCIS——ロシアの対外政策における位置づけ——」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要第1号、1998年3月）
- ⑪「ロシアの対外政策における中国——戦略的パートナーシップの限界——」（新防衛論集第25巻第4号、1998年3月）
- ⑫「APEC加盟問題とロシア——アジア太平洋国際経済協力体制におけるロシア極東」（海外事情 第46巻第9号、1998年9月）

所 属 学 会

ロシア東欧学会・日本国際政治学会・アジア政経学会・軍事史学会・ロシア史研究会



氏名	ハラグチ タケヒコ 原口 武彦 HARAGUCHI Takehiko
性別	男
生年月日	1934年10月10日生
職名	教授（1994年4月）
連絡方法	E-mail：takehiko@nuis.ac.jp
学歴	1960年 早稲田大学第一政治経済学部卒業 1962年 早稲田大学大学院経済学研究科経済学専攻修士課程修了
学位	経済学修士（早稲田大学、1962年3月）
職歴	アジア経済研究所アフリカ総合研究プロジェクト・コーディネーター
研究分野	仏語圏西アフリカ諸国の態様を素材として、現代世界における国家と族的集団（部族、民族、エスニック・グループ）との関係を考察する。
主要業績	<b>著書</b> ①『部族——その意味とコートジボワールの現実——』（アジア経済研究所 1975年） ②『アビジャン日誌——西アフリカとの対話——』（アジア経済研究所 1985年） ③『転換期アフリカの政治経済』（編著）（アジア経済研究所 1993年） ④『構造調整とアフリカ農業』（編著）（アジア経済研究所 1995年） ⑤『部族と国家——その意味とコートジボワールの現実』（アジア経済研究所 1996年） ⑥『現代国家と移民労働者』（共著）（有信堂、1992年） <b>論文</b> ①「私の地域研究観」私学公論（1991年7・8月合併号） ②「英語圏におけるEthnicity論の展開」新潟国際情報大学紀要（創刊号1998年3月） <b>所属学会</b> 日本アフリカ学会 <b>その他</b> チュニジア・チュニス大学社会経済研究所客員研究員（1966・4～1967・9） コートジボワール社会経済研究センター客員研究員（1967・10～1968・3） （1982・4～1984・3）（1988・4～1990・3）



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
学 位  
職 歴

アレクサンドル プラソル  
Alexander Prasol

男

1952年10月26日生

教授（2000年4月）

E-mail : prasol@nuis.ac.jp

1975年 極東国立大学（ロシア）日本言語文学科卒業

1978年 モスクワ大学日本言語学系修士課程終了

文学修士（モスクワ大学、1979年）

1978～1980年 極東大学東洋学部助手

1980～1985年 同学部専任講師

1985～1991年 同学部助教授

1981～1991年 同学部日本言語文学学科主任

1991～1994年 新潟大学教養部助教授

1994～1999年 新潟大学人文学部助教授

1999～2000年 新潟大学人文学部非常勤講師

## 研究分野

大学卒業後、日本語と日本文化の研究をすすめてきたが、来日すると、ロシア語・ロシア文化も研究することになった。現在は、両方とも行っている。ロシア史概説とロシア文化論を担当するので、ロシアの過去の文化と社会、ロシア人発想の起源、ロシア人論の説に興味を持っている。現代のロシア人として、激しい移り変わりを体験しつつある新しいロシア連邦からのニュースを分析している。ロシア人の目でみた日本、日本人の目で見たロシア、両国間の交流と諸問題などについて考えている。

## 主要業績

### 著書

①『日本語会話』（共著）極東大学出版部 1984年

②『日本語会話における終助詞』（単著）極東大学出版部 1989年、1999年出版

③『日本教育の成立』（8～19世紀）ダリナウカ出版、2001（単著）

### 論文

①「現代日本語における接続詞と接続助詞」（修士論文）単著1979年（モスクワ）

②「意味論と機能論からみた接続詞と接続助詞」（単著）1978年（モスクワ）

③「現代日本語における接続助詞と副助詞との相関をめぐって」（単著）1984年（モスクワ）

④「擬音語・擬態語の意味と用法」（単著）1984年（ウラジオストック）

⑤「現代日本語における終助詞の弁別的特徴について」（単著）1986年（レニングラード）

⑥「ソビエトの現状と日本への期待」（単著）1992年（新潟大学）

⑦「日本語における因果関係を表す接続方法について」（単著）1992年（新潟大学）

⑧「交流と外国語教育」（単著）1993年（新潟大学）

⑨「日本語条件形式の用法をめぐって」（単著）1995年（新潟大学）

⑩「現代ロシア語における俗語と隠語について」（単著）1996年（新潟大学）

⑪「徳川時代の学校教育」（単著）1998年（ウラジオストック）

⑫「古代日本の教育の成立と最初の教育機関」（単著）1998年（ウラジオストック）

⑬「Some Features Of the Sentence-Final Particles in Japanese」（単著）1999年（新潟大学）

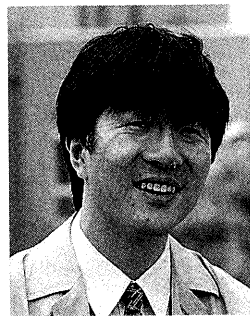
⑭「鎌倉・室町時代の教育」（単著）1999年（ウラジオストック）

⑮「徳川時代の文化と家庭教育」（単著）2001年（ウラジオストック）

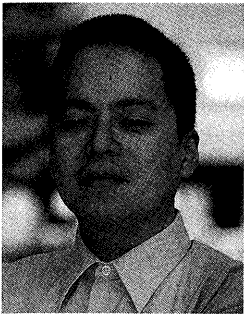
⑯「明治初期教育制度の変遷」（1868～1871年）新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号、2002年

## 所属学会

日本ロシア文学会、新潟大学環日本海研究会



氏名	ウスイ ヨウイチロウ 臼井 陽一郎 USUI Yoichiro
性別	男
生年月日	1965年8月10日生
職名	助教授(2000年4月)
連絡方法	E-mail : usui@nuis.ac.jp
学歴	1989年 早稲田大学社会科学部卒業 1992年 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了 1995年 早稲田大学大学院経済学研究科博士課程単位取得退学
学位	修士(早稲田大学経済学研究科)、MA by research(リーズ大学法学部)
学職	1994～1996年 早稲田大学社会科学部助手 1997年 新潟国際情報大学専任講師
研究分野	欧州統合論、EUの統治と法秩序、ECの環境政策と環境法。 欧州共同体の環境政策を支える制度枠組みと、環境法規範の発展過程に関心がある。また、社会構成主義(Social Constructivism)の観点から、法に対する学際的な研究アプローチを模索している。
主要業績	<b>著書</b> ①『世界システムの「ゆらぎ」の構造：EU・東アジア・世界経済』田村正勝・臼井陽一郎著、早大出版部、1998年2月。 <b>論文</b> ① 'Norm Evolution in EC Environmental Law' Constitutionalism Web-Papers (ConWEB) No.1／2002, 2002年1月。 ② EU研究における統治(Governance)論の射程『新潟国際情報大学紀要』第5号、2002年3月。 ③ 'Governance, Legal Order, and Social Integration: Reviewing New Governance approaches in EU Studies' 『新潟国際情報大学紀要』第3号、2000年3月。 ④ EUの政治システムをめぐる問題状況『新潟国際情報大学紀要』第2号、1999年3月。 ⑤ 「EC環境政策の新展開とローカル環境イニシアティブ」『経済社会学会年報』第20号、1998年9月。 ⑥ 「EUの通商戦略とWTOへの対応」『外交時報』第1331号、外交時報社、1996年9月。 ⑦ 「EUにおける近代国家の変容と地域政策の展開」『ソシオ・サイエンス』第2号、早稲田大学大学院社会科学部研究科、1996年3月。 ⑧ 「EUにおけるサブシディアリティーの原理と協調的連邦制の概念」『ソシオ・サイエンス』第1号、早稲田大学大学院社会科学部研究科、1995年3月。
所属学会	UACES、EUSA、日本EU学会、経済社会学会



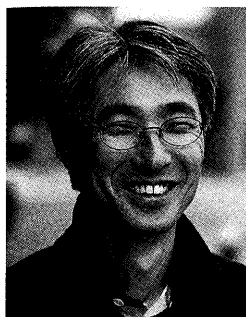
氏名	越智 敏夫 OCHI Toshio
性別	男
生年月日	1961年7月7日生
職名	助教授（1999年4月）
連絡方法	E-mail : tochi@nuis.ac.jp
学歴	1986年 立教大学法学部卒業 1992年 慶應義塾大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得満期退学 法学修士（慶應義塾大学政治学専攻、1988年3月）
学位	1992～1994年 立教大学法学部助手
職歴	1994～1996年 シカゴ大学客員研究員 1996年 新潟国際情報大学専任講師
研究分野	現代政治理論、アメリカ政治論。 現代政治理論の発展と市民社会・政治文化の関連の研究。主に20世紀のアメリカ合衆国を中心にした先進諸国における政治的理念の展開を現実政治との関係のなかで考察する。そうすることにより、国民国家を中心概念とした一元的な政治統合の態様を批判的に検討し、その代替物の可能性を政治理論的課題として考えたい。また、その議論の前提としておきたいのは、目の前にある政治制度や政治体制は所与のものとして存在しているのではなく、それらはあくまでも変革可能な「状況」の論理のもとに置かれているということである。
主要業績	<p><b>著書</b></p> <p>①『市民政治のフロンティア』（共著、世織書房、2002年）          ②『講座政治学 第一巻・政治理論』（共著、三嶺書房、1999年）          ③『グローバル・デモクラシーの政治空間』（共著、東信堂、1997年）</p> <p><b>論文</b></p> <p>①「司法制度改革の政治的意義」（月刊司法改革第20号、2001年）          ②「アメリカ合衆国におけるマイノリティ文化の人為的形成」（地域文化研究第4号、2000年）          ③「他者理解の政治学：多文化主義への政治理論的対応」（新潟国際情報大学情報文化学部紀要第2号、1999年）          ④「日本—自閉する国民国家」（私学公論1997年3・4月号）          ⑤「政治文化と市民宗教」（立教法学第38号 1994年）          ⑥「アメリカ市民社会の自画像」（私学公論1993年10月号）          ⑦「政治統合論の一考察—市民宗教を中心として」（慶應義塾大学大学院法学研究科論文集第32号 1991年）</p>
所属学会	日本政治学会 日本アメリカ学会 American Political Science Association 政治思想学会 地域文化学会





氏名	小林 元裕 KOBAYASHI Motohiro
性別	男
生年月日	1963年1月1日生
職名	助教授（2001年9月）
連絡方法	E-mail：Kobayashi@nuis.ac.jp
学歴	1986年 横浜市立大学文理学部文科卒業 1989年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程前期課程修了 1990～1992年 南開大学留学 1996年 立教大学大学院文学研究科史学専攻博士課程後期課程退学
学位	文学修士（立教大学、1989年3月）
学職歴	1996～1998年 立教大学非常勤講師 1997～1998年 宇都宮大学・日本体育大学非常勤講師 1998～2001年 在瀋陽日本国総領事館専門調査員
研究分野	日中関係論・日中近現代史
主要業績	著書 ①『東京裁判資料・田中隆吉尋問調書』（共編、大月書店、1994年） ②『天津史－再生する都市のトポロジー』（共著、東方書店、1999年） 論文 ①「1920年代天津における日本人居留民」（『史苑』第55巻第2号、1995年） ②「中国における日本現代史研究の動向」（『年報日本現代史』第1号、東出版、1995年） ③「天津事件再考－天津総領事館・支那駐屯軍・日本人居留民－」（『日本植民地研究』第8号、1996年） ④「阿片をめぐる日本と汪兆銘政権の『相剋』」（『年報日本現代史』第3号、現代史料出版、1997年） ⑤「Drug Operations by Resident Japanese in Tianjin」（『Opium Regimes－China,Britain,and Japan,1839－1952』, Berkeley:University of California Press,2000） ⑥「移行期における民営経済－中国・瀋陽にみる歴史的背景と現在」（共著、『東亜』2001年2月号）
所属学会	日本植民地研究会 日本現代史研究会 中国現代史研究会





氏名	澤口 晋一 SAWAGUCHI Shin-ichi
性別	男
生年月日	1959年2月10日生
職名	助教授（1999年4月）
連絡方法	E-mail : sawashin@nuis.ac.jp
学歴	1983年 明治大学文学部史学地理学科地理学専攻卒業 1992年 明治大学大学院文学研究科地理学専攻博士後期課程単位取得
学位	博士（地理学）明治大学、2001年3月
職歴	1992～1996年 明治大学文学部・国士舘大学文学部非常勤講師 1994～1996年 東海大学文学部非常勤講師 1996年 新潟国際情報大学専任講師
研究分野	①高緯度極地と中緯度高山山地における地形プロセスの比較研究。 ②氷河・周氷河地形に基づく氷期の古環境復元。
主要業績	<p><b>著書</b></p> <p>①『日本の地形3 東北』（分担執筆）東京大学出版会（2002年）          ②『山名・用語辞典』（分担執筆）山と溪谷社（1998年）          ③『第四紀露頭集 - 日本のテフラ』（分担執筆）（日本第四紀学会 1996年）          ④『世界の山々』（分担執筆）（古今書院 1995年）          ⑤『山の自然学入門』（分担執筆）（古今書院 1992年）</p> <p><b>論文</b></p> <p>①「Holocene Glacial Advances in Koryto Glacier, Kamchatka Russia」          （Cryospheric Studies in Kamchatka II 1998年）          ②「スピッツベルゲン、ニューオールスンにおける地温観測」（地学雑誌107-5 1998年）          ③「北上山地における周氷河性斜面物質移動と凍上に関する野外実験」（地形19-3 1998年）          ④「スピッツベルゲンの周氷河性岩屑斜面における斜面物質の移動速度とプロセス」（地学雑誌104-6 1995年）          ⑤「スピッツベルゲンおよびわが国高山・山地における凍結融解による斜面物質移動」（地理学評論65-2 1992年）          ⑥「Timing of the Little Ice Age Glaciation in Reindalen, West Spitsbergen, Reconstructed by Lichenometry」（Proceedings of the International Symposium on the Little Ice Age Climate 1992年）          ⑦「北上川上流域における最終氷期後半の化石周氷河現象－ソリフラクションローブ、階状土の形成期と古環境－」（季刊地理学44-1 1992年）</p>
所属学会	日本地理学会 日本第四紀学会 東北地理学会 東京地学協会 日本地形学連合
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1988～1989年夏期、教育社極地プロジェクト研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査</li> <li>・1990～1992年および1994年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として北極圏スバルバル諸島調査</li> <li>・1997年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カムチャッカ半島調査</li> <li>・2001年夏期、文部省科学研究費海外学術調査研究分担者として、カナダ北極圏エルズメア島調査。</li> </ul>



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
学 位  
職 歴

研究分野

主要業績

所属学会

シン ウンジュ

申 銀珠 SHIN Eunju  
女

1958年3月4日生

助教授（2001年4月）

E-mail : sin@nuis.ac.jp

韓国外国語大学及び大学院（修士過程）修了後、  
お茶の水女子大学大学院人文科学研究科及び人間文化研究科修了  
博士（人文科学、お茶の水女子大学、1995年3月）

日本学術振興会外国人特別研究員、  
名古屋大学言語文化部非常勤講師（1998.4～2001.3）

韓国近代文学形成期における日本からの影響及び日韓近代文学の関連様相について。特に個人研究として、植民地時代、韓国人作家によって書かれた〈日本語文学〉、国内共同研究として〈中野重治と朝鮮〉について研究を進めている。

論文

- ①「韓国近代文学の中の日本文学—『創造』『廃墟』の翻訳詩を中心として—」  
（単著）『人間文化研究年報』第16号（お茶の水女子大学、1993.2）
- ②「朱耀翰と川路柳虹」（単著）『淵叢』第2号（淵叢の会、1993.3）
- ③「〈朝鮮〉から見た中野重治—植民地知識人の自画像を求めて—」（単著）  
『国際日本文学研究集会会議録』第17回（国文学研究資料館、1994.10）
- ④「韓国における高橋新吉」（単著）  
『国文』第82号（お茶の水女子大学国語国文学会、1995.1）
- ⑤「叙述の真偽からみた『地獄変』の世界」（単著）  
『日語日文学研究』第28輯（韓国日語日文学会、1996.6）
- ⑥「中野重治と韓国プロレタリア文学運動—林和、李北満との関係を中心として—」  
（単著）『日本研究』第12号（韓国外国語大学校日本研究所、1998.2）
- ⑦「日本統治期の韓国人作家と日本語」（単著）  
『日本近代文学』第63集（日本近代文学会、2000.10）
- ⑧「『雨の降る品川駅』・中野重治・『五勺の酒』—民族・民族問題をめぐって—」  
（単著）『淵叢』第10号（淵叢の会、2001.8）
- ⑨「中野重治、詩的精神の憤怒の行方—君らの叛逆する心は別れの一瞬に凍る—をめぐって」（単著）『国文学』第47巻1号（學燈社、2002.1）

日本近代文学会

朝鮮学会

お茶の水女子大学国語国文学会



氏名	高橋 正樹 TAKAHASHI Masaki
性別	男
生年月日	1956年3月1日生
職名	助教授（1998年4月）
連絡方法	E-mail：tmasaki@nuis.ac.jp
学歴	1981年 中央大学法学部政治学科卒業 1990年 中央大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程満期退学
学位	法学修士（中央大学、1985年3月）
職歴	タイ国タマサート大学客員研究員 中央大学法学部兼任講師 白鷗大学法学部非常勤講師
研究分野	タイを中心とした東南アジアの政治が研究分野です。とくに、現在は冷戦とタイの「国民国家」構築の関係に興味を持っています。近代国家は国民国家をモデルにして構築されてきました。タイも例外ではなく、国民国家の構築を目的に近代化を進めてきました。しかし、国民国家理念は支配の正当化の手段になってきましたが、その擬制による矛盾は地域間や階級間の格差の増大の固定化というかたちで表面化しています。その過程を冷戦時代のタイ国家研究を通じて明らかにすることが当面の研究テーマです。 1950年代中期以降、タイの周辺国であるベトナム、カンボジア、ラオスでは独立をめぐる国内政治の不安定が続いていました。その結果、反共の世界戦略をとるアメリカとの関係を強め莫大な経済・軍事援助を得て、国内の開発を行ない軍部の強化を図りました。バンコクの軍部を核とするタイの支配層は、その過程でタイ政治における唯一の政治集団としてその権力基盤の強化を図りました。さらに、この過程で国民形成が進められ、支配層をしめる華人がタイ国民として同化を進めていきました。 このようなタイ国民国家の形成過程を冷戦状況との関係で考察することは、冷戦構造の崩壊と経済のグローバル化の進む今日の国際状況の中で、タイ国家がどのように変容するかを考える上で重要な視点を与えてくれるでしょう。
主要業績	論文 ①「19世紀前半におけるバンコク王朝の政治秩序 ― 交易港と権威交易体制 ―」『法学新報』第96巻1・2号（中央大学法学会）、1989年11月 ②「カンボジア紛争とタイ外交（1978－1982年）」『中央大学企業研究所年報』第14（II）号（中央大学企業研究所）、1993年7月 State of Thai Studies in Japan, The Thai Seminar of Japan 編1996年9月 ③「カンボジア紛争とタイ国共産党の崩壊 ― 地域システムとタイ国家システム ―」『中央大学社会科学研究所共同研究報告書』（中央大学社会科学研究所）、1997年7月 ④「アロンの国際関係論の認識論的検討 ― その自然状態を中心に ―」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』1998年3月 ⑤「諸国家システムにおける国民国家」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』2000年3月
所属学会	日本国際政治学会・東南アジア史学会・日本平和学会・環日本海学会・地域文化学会・タイ学会
その他	タイ国タマサート大学客員研究員（1986～88年、1992～1994年） アメリカでの調査・研究（1995～1996年）



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴

グレゴリー ハドリー

Gregory Hadley

男

1965年3月12日生

助教授 (2000年4月)

E-mail : hadley@nuis.ac.jp

1987年 Northwest Missouri State University, USA

コミュニケーション専攻・スペイン語副専攻卒業

1992年 Midwestern Baptist Theological Seminary, USA

神学専攻修士課程修了

1997年 University of Birmingham, UK

応用言語学専攻修士課程修了

学 位  
職 歴  
研 究 分 野

Master of Divinity, Master of Arts (TEFL/TESL)

1997-2000年 長岡工業高等専門学校外国人教師

①Personal Construct Repertory Gridsによる社会的、教育的価値観の異文化間  
リサーチ。

②ユダヤ・キリスト教の信仰と倫理が西洋文化の形成に及ぼした影響。

③日本の大学における効果的な英語教育カリキュラムの開発。

主 要 業 績

論文

①『Classroom Teachers and Classroom Research』(共著)(全国語学教育学会、1997年)

②「英語に対する学生の不安感—その積極的学習意欲への転換」(『看護教育』  
医学書院、1994年)

③「Lexis and Culture: Bound and Determined?」(『Journal of Psycholinguistic  
Research』1997年)

④「Using Corpora with Japanese Beginners」(『IATEFL Newsletter』1998年)

⑤「Concordancing in Japanese TEFL: Unlocking the Power of Data-Driven  
Learning」(『The Japanese Learner』Oxford University, 1998年)

⑥「An Investigation of Techniques that Encourage and Measure Oral  
Communications in Japanese EFL Classrooms」(『長岡工業高等専門学校  
研究紀要』1998年)

⑦「Returning Full Circle: A Survey of EFL Syllabus Designs for the New  
Millennium」(『RELC Journal』1998年)

⑧「Innovative Curricula in Tertiary ELT: A Japanese Case Study」  
(『ELT Journal』1999年)

⑨「Constructions across a Cultural Gap」(共著)  
(『Action Research』, TESOL 2001年)

所 属 学 会

全国語学教育学会 (JALT)

International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL)

大学英語教育学会 (JACET)



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
職 歴

ヒロセ テイソウ  
広瀬 貞三 HIROSE Teizo

男

1956年1月2日生

助教授（1998年4月）

E-mail : hirose@nuis.ac.jp

1979年 早稲田大学第二文学部東洋文化科卒業

1984年 韓国・高麗大学大学院史学科韓国史専攻修士課程修了

文学修士（高麗大学、1984年2月）

中央大学経済学部兼任講師（朝鮮語担当）

1994年 新潟国際情報大学専任講師

研究分野

①朝鮮近現代史。近代における朝鮮社会の急速な変貌と、日本の植民地政策との関連に関心を持つ。現在は発電所、道路、鉄道、河川改修などの産業基盤整備がいかに進められたのか、またその過程で朝鮮の従来の政治・経済・社会などの構造がいかに変化したのかを中心に研究している。

②日本近代土木史。土木史を中心に、近代日本社会の特徴を明らかにする。

主要業績

著書

①『間組百年史』全2巻（共著）（同社、1989、1990年）

②『ニッポン・コリア読本』（共著）（教育開発研究所、1991年）

③『産業の昭和社會史・12・土木』（共著）（日本経済評論社、1993年）

④『日本土木建設業史Ⅱ』（共著）（日本土木工業会、2000年）

⑤『日清戦争期の韓国改革運動－甲午更張研究』（柳永益著）（共訳）（法政大学出版局、2000年）

論文

①「19世紀末日本の朝鮮鉱山利権獲得企図（1882～94）」『史叢』（1984年10月）（韓国）1～66頁

②「19世紀末日本の朝鮮鉱山利権獲得について－忠清道稷山金鉱を中心に」『朝鮮史研究会論文集』22号（1985年3月）167～187頁

③「李容翊の政治活動（1904～1907）について－その外交活動を中心に」『朝鮮史研究会論文集』25号（1988年3月）83～109頁

④「水豊発電所建設による水没地問題－朝鮮側を中心に」『朝鮮学報』139号（1991年4月）1～35頁

⑤「『官幹旋』と土建労働者－『道外幹旋』を中心に」『朝鮮史研究会論文集』29号（1991年10月）115～137頁

⑥「植民地朝鮮における官幹旋土建労働者－道外幹旋を中心に」『朝鮮学報』155号（1995年4月）1～46頁

⑦「1910年代における道路建設と朝鮮社会」『朝鮮学報』164号（1997年7月）1～55頁

⑧「朝鮮における土地収用令－1910～20年代を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』2号（1999年3月）1～22頁

⑨「植民地期における治水事業と朝鮮社会－洛東江を中心に」『朝鮮史研究会論文集』37号（1999年10月）107～131頁

⑩「佐渡鉱山と朝鮮人労働者（1939～1945）」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』3号（2000年3月）1～29頁

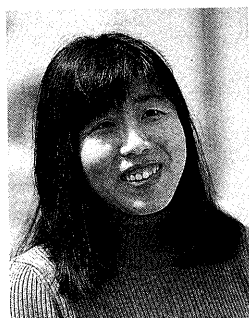
⑪「三信鉄道工事と朝鮮人労働者－『葉山嘉樹日記』を中心に」『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』4号（2001年3月）19～44頁

所属学会

朝鮮史研究会・朝鮮学会・九州大学朝鮮学研究会・国際韓国語教育学会・日本植民地研究会

その他

韓国留学（ソウル大学語学研究所、高麗大学）（1980年8月～1984年2月）



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
職 歴  
受 賞 歴  
研 究 分 野  
主 要 業 績

ヤグチ ユウコ  
矢口 裕子 YAGUCHI Yuko  
女

1961年2月22日生

助教授 (2001年4月)

E-mail : yaguti@nuis.ac.jp

1985年3月 法政大学文学部英文学科卒業

1991年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

1994年3月 法政大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士課程満期退学

文学修士 (法政大学、1991年3月)

東京医科歯科大学非常勤講師 (1994.4~2001.3)

1996年7月14日第回女性学研究国際奨励賞

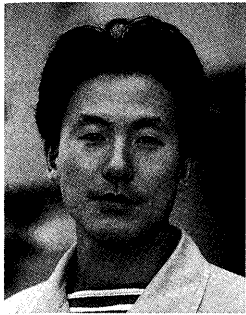
アメリカ文学におけるジェンダー・セクシュアリティ研究 (個人研究)

# 論文

- ① "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels ( I )" 『法政大学大学院紀要』第28号 (67-84頁) (1992.3)
- ② "Anais Nin : Another Woman Not in the Novels ( II )" 『法政大学大学院紀要』第30号 (55-74頁) (1993.3)
- ③ 「Sam Shepard, Fool for Love-カウボーイが女を愛する時」 法政大学英文学会『英文学誌』第36号 (65-85頁) (1994.2)
- ④ 「Sam Shepard, A Lie of the Mind-新しいイヴの歌」 日本アメリカ文学会『アメリカ文学研究』第32号 (57-74頁) (1996.3)
- ⑤ "The Text That Is the Writer-Anais Nin's Diary" Anais-An International Journal. Vol.16. Anais Nin Foundation (pp.49-60) (1998.3)
- ⑥ "The Imaginary Father" Anais-An International Journal. Vol.18. Anais Nin Foundation (pp.46-60) (2000.3)
- ⑦ 「『パリ、テキサス』あるいは砂漠のロマンス」 全国アメリカ演劇研究者会議『アメリカ演劇』第12号 (65-85頁) (2000.6)

## 所属学会

日本アメリカ文学会  
日本英文学会  
日本女性学会  
日本平和学会



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴

アンドウ ジュン

安藤 潤 ANDO Jun

男

1968年3月25日生

講師 (2000年4月)

E-mail : ando@nuis.ac.jp

1992年3月 早稲田大学政治経済学部経済学科卒業

1994年3月 早稲田大学大学院経済学研究科修士課程修了

2000年3月 早稲田大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得修了

学 位

経済学士 (早稲田大学、1992年3月)

経済学修士 (早稲田大学、1994年3月)

職 歴

財団法人国際通信経済研究所嘱託研究員 (1997年4月～2001年3月)

国土館大学政経学部二部・法学部非常勤講師 (2002年4月～)

研究分野

①研究テーマ：防衛支出と経済成長に関する実証分析

キーワード：防衛支出、externality effect、内生的経済成長論

研究形態：個人研究

②研究テーマ：ITとマクロ経済

キーワード：生産性パラドクス、ニュー・エコノミー論、電子商取引

研究形態：個人研究

主要業績

著書

①『サイバー社会におけるコーポレート・ガバナンス』第5章「サイバー社会におけるITガバナンス—経済学的観点からの提言」(共著、2000年3月発行) 財団法人国際通信経済研究所、76-95頁、共著者：◎水元豊文、飯塚留美、大野司、坂部望、坂本博史、森下真理子

②『Current Issues in Economic Policy』[Chapter 6 A Study on the 'Peace Dividend' under the Clinton's Administration] (共著、2000年12月発行) 早稲田大学現代政治経済研究所、121-131頁、共著者：◎諏訪貞夫、松本保美、松崎慈恵、馬場正弘、鎗田亨、永富隆司

③『諏訪貞夫教授古希記念論文集 日本経済の新たな進路—実証分析による解明—』[日本の経済成長と日米安全保障条約に関する—考察—米国軍事支出からのスピル・インに関するexternality effectの実証分析—] (共著、2002年2月発行) 文眞堂、215-228頁、共著者：諏訪貞夫、松本保美、ほか

論文

①「日本における防衛部門経済と経済成長に関するより詳細な考察」(単著 平成10年9月、『早稲田経済学研究 第47号』、早稲田大学大学院経済学研究会、1-13頁)

②「情報通信とマクロ経済学：最近の研究動向」(単著、平成10年12月、『昭和大学教養部紀要第29巻』、昭和大学教養部、9-14頁)

③「防衛部門経済の民生部門経済におけるマクロ経済成長に対する影響：技術進歩を考慮した場合—その1」(単著、平成11年3月、『早稲田経済学研究 第48号』、早稲田大学大学院経済学研究会、1-11頁)

④「フランス国有保険会社GANの民営化」(単著、平成11年5月、『海外電気通信1999年5月号』、財団法人国際通信経済研究所、27-40頁)

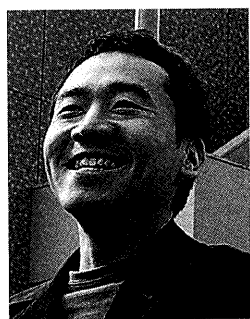
⑤「クリントン政権下の財政政策：米国経済は「平和の配当」を享受してきたのか」(単著、平成11年12月、『昭和大学教養部紀要 第30巻』、昭和大学教養部、1-8頁)

⑥「1990年代後半における日米のIT資本とマクロ経済パフォーマンス—ロー残差と経済成長に関する—考察—」(単著、2002年3月、『新潟国際情報大学情報文化学部紀要』、新潟国際情報大学情報文化学部紀要編集委員会、71-89頁)

所属学会

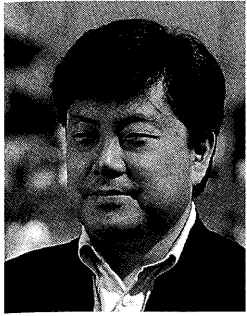
日本経済政策学会・情報通信学会・日仏経済学会・日本保険学会





氏名	クマガイ タク 熊谷 卓 KUMAGAI Taku
性別	男
生年月日	1969年1月25日生
職名	講師 (2000年9月)
連絡方法	E-mail : takuk@nuis.ac.jp
学歴	1991年3月 私立甲南大学法学部法学科卒業 2000年8月 広島大学大学院社会科学研究科後期博士課程法律学専攻単位取得退学
学位	法学修士 (広島大学、1994年3月)
職歴	1995年～1999年 私立広島文教女子大学文学部非常勤講師 1997年～1999年 広島大学法学部助手 1998年～1999年 島根県立国際短期大学国際文化学科非常勤講師 2000年 私立福山大学経済学部非常勤講師 2000年 国立呉工業高等専門学校非常勤講師
研究分野	国際法、国際刑事法。 テロリズムや麻薬の不法な取引といった、国境を越える犯罪の増加という問題を素材として、現代国際法が、如何にして諸国の多様な利益 (主権) を調整しつつ、国際社会の共通利益 (共通の保護法益) を擁護しているのかということを現在の研究のテーマとしている。
主要業績	論文 ①「欧州連合 (EU) と国際テロリズム」 (単著) 1997年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第20巻第3号 203頁～235頁 ②「犯罪人引渡と国際テロリズムーフランス共和国の立法および判例から」 (単著) 1998年2月 広島法学 (広島大学法学会) 第21巻第3号 95頁～133頁 ③「フランス共和国におけるテロリズムに対する国内法的規制 (一) (二・完)」 (単著) 1999年2月 1999年3月 広島法学 (広島大学法学会) 第22巻第3号 37頁～60頁 第22巻第4号 117頁～138頁 ④「国家テロリズムと国際法ーロッカビー事件を手がかりとして」 (単著) 2002年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要第5号 115頁～154頁
所属学会	国際法学会 世界法学会 米国国際法学会





氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
職 歴

研究分野

主要業績

所属学会

ササキ ヒロシ  
佐々木 寛 SASAKI Hiroshi  
男

1966年6月29日生

講師（2000年4月）

E-mail : shiroshi@nuis.ac.jp

1990年 立教大学法学部卒業

1996年 中央大学大学院法学研究科博士後期課程修了

法学修士（中央大学、1993年3月）

1996年～1998年 立教大学法学部助手

1998年～2000年 日本学術振興会特別研究員・中央大学法学部兼任講師

「グローバル・デモクラシー（地球民主主義）」の理論的研究

国境を越える社会運動およびNGOの政治学的分析

国際機構の動態に関する理論的・実証的研究

東アジアの安全保障問題をめぐる理論的・実証的研究

現代戦争論 など。

論文・その他

- ① 「J.ガルトゥング平和理論の生成と展開——平和研究の新次元」『大学院研究年報』第23号（中央大学）1994年2月
- ② 「平和研究の理論的地平——21世紀の平和秩序を求めて」『平和研究』第20号（日本平和学会）1996年6月
- ③ 「『グローバル・デモクラシー』論の構成とその課題——D.ヘルドの理論をめぐって」『立教法学』第48号（立教大学）1998年2月
- ④ 「『地球社会』と民主主義原理——『オタワ・プロセス』を考える」『立教法学』第55号（立教大学）2000年4月
- ⑤ 「グローバルな『全体主義』と『新しい戦争』」『歴史地理教育』第612号 2000年8月
- ⑥ 『平和研究 第26号——新世紀の平和研究』（早稲田大学出版部）（編著）2001年11月
- ⑦ 「Atom-Politics in East Asia : Towards a Border-less Democracy」『情報文化学部紀要』第5号（新潟国際情報大学）2002年3月
- ⑧ 「世界政治と市民——現代コスモポリタニズムの位相」『現代市民政治論』（世織書房）2002年4月
- ⑨ A.ギャンブル「新しい世界秩序の形成——政治的能力と政策的挑戦」（翻訳）『世界化と平和の問題状況』（中央大学社会科学研究所）1999年3月
- ⑩ J.ガルトゥング「新世界知的秩序——世界をめぐる知のスタイル」（翻訳）遠藤誠治・小林誠編『グローバル・ポリティクス』（有信堂）2000年9月
- ⑪ M.ウォルツァー『グローバルな市民社会へ向かって』（日本経済評論社）（共訳）2001年10月
- ⑫ D.ヘルド『民主主義と世界秩序』（NTT出版）（共訳）2002年4月
- ⑬ 「冷戦後の世界政治を読む」『AERAMook 新国際関係がわかる』（朝日新聞社）1999年5月
- ⑭ 「地球化時代の〈アイデンティティ〉」『AERAMook 人間科学がわかる』（朝日新聞社）2001年10月 など。

日本国際政治学会  
日本平和学会（理事）  
日本政治学会



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
職 歴  
  
研 究 分 野

主 要 業 績

所 属 学 会  
そ の 他

ナガサカ イタル

長坂 格 NAGASAKA Itaru

男

1969年3月29日生

講師 (2002年4月)

E-mail : nagasaka@huis.ac.jp

1991年 国際基督教大学 教養学部卒業

1994年 筑波大学大学院 地域研究研究科修了

1998年 神戸大学大学院 文化科学研究科単位取得退学

修士 (地域研究、筑波大学、1994年3月)

1998年～2001年 神戸大学大学院文化科学研究科助手

1999年～2002年 流通科学大学非常勤講師

海外移住の拡大によるフィリピンの村落社会の変容、ヨーロッパへの第三世界からの移住者の流入を、フィールドワークを通じて社会人類学の視点から記述・分析すること。東南アジアにおける国家による住民の組織化を、比較社会学の観点から考察すること。

著書

①Population Movement in Southeast Asia: Changing Idintities and Strategies for Survival (共著) (Japan Center for Area Studies, 2000年)

②『世界の住民組織：アジアと欧米の国際比較』(共著) (自治体研究社、2000年)

論文

①『『国際労働力移動の人類学』試論：フィリピン・イロコス地方農村の事例研究』(『社会学雑誌』第12号、1995年)

②「フィリピンの地方政治とエリート家族：A.マッコイ編『家族のアナーキー：フィリピンにおける国家と家族』をめぐって」(『社会学雑誌』第14号、1996年)

③「フィリピンにおけるバランガイの形成：フィリピン地域社会研究の一視点」(『社会学雑誌』第16号、1998年)

④ "Kinship Networks and Child Fostering in Labor Migration from Ilocos, Philippines to Italy." (Asian and Pacific Migration Journal Vol.7, No.1, 1998年)

⑤「フィリピン、イロコス地方におけるタウン・フィエスタ：海外移住者の参加を中心として」(『東南アジア島嶼部諸民族における地方政治と政治文化の社会人類学的研究』、平成10～13年度・文部科学研究費補助金 (基盤研究A (2)) 研究成果報告書、2001年)

⑥「故郷で養育される移住者の子供達：フィリピンからイタリアへの移住における家族ネットワーク」(『民族学研究』661巻1号、2001年)

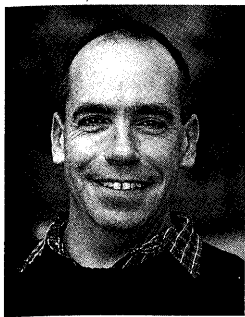
日本民族学会、日本社会学会、日本オセアニア学会、日本移民学会  
主な調査

1996～1998年 フィリピン、イロコス地方村落調査 (約2年) (松下国際財団による助成)

1999～2000年 フィリピン、イロコス地方村落調査 (約2ヶ月) (文部省科学研究費補助金・国際学術研究による助成)

2001年 イタリア、スイスにおけるフィリピン人社会調査 (約1ヶ月) (文部科学省研究費補助金・奨励研究Aによる助成)

2001年 フィリピン、マニラ市印刷工場調査 (約2週間) (文部科学省研究費補助金・基盤研究C (1) による助成)



氏名	デービッド マックララン      ジェフリー
性別	David McLachlan Jeffrey
生年月日	男
職名	1959年4月27日生
連絡方法	CEPインストラクター（2000年4月）
学歴	E-mail：jeffrey@nuis.ac.jp
	1985年12月 ナタル大学卒業
	1989年 4月 ナタル大学大学院社会科学学部卒業
学位	2000年10月～バーミンガム大学応用言語学専攻修士課程（在学中）
職歴	社会科学修士（ナタル大学、1989年4月）
	1992年5月～1993年3月 新潟English Language School
	1993年4月～2000年1月 南アフリカにて社会経済研究者として活動
研究分野	①課題： 文化と日常英会話との関連性
	キーワード： 語用論と談話法
	研究形態： 個人研究
	②課題： 授業法
	キーワード： Action research
	研究形態： 個人研究
主要業績	論文
	①Resistance against Eviction: A History of St. Wendolins,1885-1985
	②南アフリカ・クワズル-ナタル人の人口と都市化傾向の周辺分析
所属学会	全国語学教育学会（The Japan Association for Language Teaching）



氏名	ニコラ ハットン Nicola Hutton
性別	女
生年月日	1970年10月10日生
職名	CEPインストラクター (2002年4月)
連絡方法	E-mail : hutton@nuis.ac.jp
学歴	1993年 Glasgow University, Scotland Bachelor of Education (Hons) 卒業 2000年 上越教育大学 Masters in Education (修了)
学位	Master of Education
職歴	1993-1996年 上越市のALT 1997-1998年 Class teacher in St.Josephs Primary School 2000-2001年 新潟清心女子高等学校
研究分野	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Self-Assessment and its Role in Children's Writing Development.</li> <li>・ Gender Differences in Classroom Communication in Primary Schools</li> <li>・ Gender in Education (ジェンダーと教育)</li> </ul>
所属学会	STC (Scottish Teachers Council) SCRE (Scottish Council for Research in Education) 全国語学教育学会 (JALT)

# 情報 システム学科

---

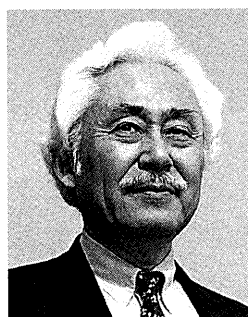
赤木 敏子  
大竹 康夫  
苅部 恒徳  
近藤 進  
正田 達夫  
高木 義和  
竹並 輝之  
槻木 公一  
永井 武  
藤瀬 武彦  
宗澤 拓郎  
渡辺 忠  
安達 巧  
石井 忠夫  
桑原 悟  
塚田 真一  
樋口 光明  
松井 孝雄  
山口 直人  
大山 毅  
河原 和好  
小宮山 智志  
佐々木 桐子







氏名	アカキ トシコ 赤木 敏子 AKAKI Toshiko
性別	女
生年月日	1939年1月21日生
職名	教授（1994年4月）
連絡方法	E-mail : akagi@nuis.ac.jp
学歴	日本女子大学家政学部家政理学科卒業
学位	家政学士（日本女子大学、1961年3月）
職歴	1962年4月 日本専売公社中央研究所 入社 （1985年5月 日本たばこ産業株式会社に名称変更） 1988年4月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 1988年1月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 主任研究員 1994年3月 日本たばこ産業株式会社食生活研究所 退職 1971年4月～1997年3月 日本科学技術連盟官能検査研究会指導委員を兼職 1977年4月～1997年3月 実践女子学園大学非常勤講師を兼職
研究分野	日常生活における各種問題点の分析。 情報教育の現状と今後の課題。
主要業績	論文 ①「新潟における情報システム化状況調査」本大学共同研究（1995） ②「暮らしの中の折込み広告」全国折込広告新潟大会（1998） ③「暮らしの中から(2)中学生の思いやり行動 統計」日本統計協会（2000.6） ④「暮らしの中から(3)若者と携帯電話とのこれからの関係 統計」日本統計協会（2000.7）
所属学会	日本官能評価学会(理事) 日本行動計量学会 応用統計学会 情報処理学会
その他	新潟県卸売り市場審議会委員



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
職 歴

オオタク ヤスオ  
大竹 康夫 OHTAKE Yasuo  
男  
1940年1月23日生  
教授（2002年4月）  
E-mail : ohtake@nuis.ac.jp  
1964年 東京大学理学部物理学卒業  
2000年 東京工業大学大学院社会理工学研究科博士課程後期課程満期退学  
理学士（東京大学、1964年3月）  
1964年～1989年 NEC中央研究所およびC&Cパブリックシステム本部勤務  
（コンピュータシステムの性能評価に関する研究、社会－技術システムのシ  
ステム開発、教育システム事業の推進、社内遠隔教育システムNESPACの開発に  
携わり、教育システム部長、本部長代理を歴任）  
1974年～1976年（財）未来工学研究所（科技庁所管）出向（主任研究員、テ  
クノロジーアセスメントの調査研究に携わる。）  
1989～2002年 NECユニバーシティ勤務（取締役・兼マルチメディア教育セ  
ンター長、および主席技師長を歴任）  
1994年～2001年 文教大学人間科学部非常勤講師

研究分野

- ①情報通信技術を活用する新しいサービス／ビジネスの研究  
地域の産業界と連携しつつ新しいサービス／ビジネスモデルを提案し、あわ  
せてシステム計画の方法を探究する。
- ②ネットワーク型分散教育システム（e-ラーニング）に関する研究  
遠隔教育システムの評価研究、ならびに、オンライン学習コースの開発と地  
域生涯学習ネットワークサービスへの発展形の研究。
- ③技術経営（MOT;Management Of Technology）戦略と人材育成政策の研究

主要業績

著書

- ①「企業内教育における遠隔教育」、教育システム情報学会編、『教育情報ハン  
ドブック』、5編13.3節（分担）、実教出版刊、2001.10
- ②『実践・サテライト教育』、NEC文化センター刊、1990.6（共著）

論文

- ①「Delivery of Corporate Virtual University for Workplace Continuing Learning」、Proc.ICDEDL'99、Beijing、1999.4（共著）
- ②「Distance Education by Satellite Communication Technology」、Proc.ASEE/ICEEP'96、Washington, D.C.、1996.6（単著）
- ③「NESPACによる上流工程SE教育の展開」、情報処理学会研究報告、93-CE-30、1993.11（共著）
- ④「システムズアプローチによる顧客問題解決への取り組み－システムエンジ  
ニア教育へのSSM導入の試み」、経営情報学会1993年春季全国研究発表大  
会、1993.5（共著）
- ⑤「企業内衛星利用の動向」、テレビジョン学会誌Vol.46、N0.1、pp.13-22、1992.（単著）
- ⑥「A Networking Educational System with NESPAC」、『Computers in Education』、A.McDougall and C.Dowling（Ed.）、pp.997-1002、ESV、1990（共著）

所属学会

電子情報通信学会、情報処理学会、日本教育工学会、日本工学教育協会、  
研究・技術計画学会

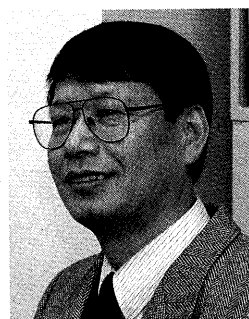
その他

文部省放送教育開発センター研究協力者（1992-95）  
日本工学教育協会国際委員会委員（1998-）





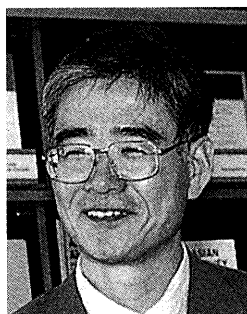
氏名	カリベ ツネノリ 苅部 恒徳 KARIBE Tsunenori
性別	男
生年月日	1937年 3月 7日生
職名	特任教授 (2002年4月)
連絡方法	E-mail : karibe@nuis.ac.jp
学歴	1959年 新潟大学人文学部英文科卒業 1965年 東京都立大学人文科学研究科博士課程英文学専攻満期退学
学位	文学修士 (東京都立大学、1962年3月)
職歴	1965年 成蹊大学文学部専任講師 1967年 新潟大学教養部専任講師 1968年 新潟大学教養部助教授 1983年 新潟大学教養部教授 1994年 新潟大学人文学部教授
研究分野	英語教育、英語辞書学、英語語源学、英語史、中世英語英文学、社会言語学など、英語と歴史・社会・文化・教育との関係分野
主要業績	<b>著書 (共著)</b> ① 中島文雄編『岩波英和大辞典』(岩波書店1970年) ② 小稻義男編『研究社新英和大辞典第5版』(研究社1980年) ③ 中島文雄ほか編『岩波新英和辞典』(岩波書店1981年) ④ 宮部菊男ほか編『ロイヤル英和辞典』(編集)(旺文社1990年) ⑤ 寺澤芳雄編『英語語源辞典』(編集)(研究社1997年) ⑥『原文対訳「カンタベリー物語・総序歌」』(松柏社2000年) ⑦『欽定訳聖書(1611版)「マタイ福音書」の解説・原文・注解・文法』 (2002年出版予定) <b>論文 (単著)</b> ① "Old English Palatalization" Metropolitan、No.9 (1964.10)、1-11. ② "On the Relationship between Relatives and Antecedents in the Parker MS of the Anglo-Saxon Chronicle from Genealogical Preface to 924" 成蹊大学文学部紀要、第1号(1965.12)、1~11. ③「対訳「ベーオウルフ」(一)、(二)、(三)、(四)」新潟大学教養部研究紀要、第20集(1989.12)、第21集(1990.12)、第22集(1991.12)、第25集(1993.12)。 ④「親称の "Thou"と敬称の "You" — 英語における2人称代名詞の歴史」新潟大学英文学会誌、第28号(1999.8)、1-16. ⑤「Chaucer の描く中世人の群像」新潟大学言語文化研究、5号(1999.12)、33-48頁。 ⑥「英語差別用語の基礎的研究(1)：性差別語」新潟国際情報大学情報文化学部紀要第4号(2001.3)、1-17頁。
所属学会	日本英文学会 日本中世英語英文学会 日本大学英語教育学会 新潟大学英文学会



氏名	近藤 進 KONDO Susumu
性別	男
生年月日	1949年3月5日生
職名	教授 (2001年9月)
連絡方法	E-mail : kondo@nuis.ac.jp
学歴	1972年 新潟大学工学部電子工学科卒業
学位	1994年 工学博士 (京都大学)
職歴	1972年～2001年 日本電信電話株式会社 (元日本電信電話公社) 研究所
研究分野	光ファイバー伝送用各種デバイス (レーザ、光変調器、光スイッチ、受光素子) および結晶成長 (バルク、液相エピタキシャル成長、気相エピタキシャル成長)
主要業績	論文 ① "LPE growth of Li (Nb,Ta) O3 solid-solution thin film waveguide on LiTaO3 substrate", J.Crystal Growth 46,p314 (1979) ② "Prevention of circumferential melt back in LPE growth of InP/InGaAsP/InGaAs/InP layers for APD", J.Crystal Growth 61,p8 (1983) ③ "660nm InGaP light emitting diodes on Si substrate", Appl.Phys.Lett.53, p273 (1989) ④ "MOVPE growth of strained InGaAs/InAlAs MQWs for a polarization insensitive electro-absorption modulator", J.Electron.Materials 25,p385 (1996) ⑤ "Ruthenium-doped Semi-insulating InP Buried InGaAlAs/InAlAs MQWs Modulators", IPRM 2001 FA3-4 PD-paper,p19 (2001)
所属学会	電子情報通信学会 応用物理学会



氏名	正田 達夫 SHODA Tatsuo
性別	男
生年月日	1933年2月6日生
職名	教授（2002年4月）
連絡方法	E-mail：shouda@nuis.ac.jp
学歴	1955年 慶応義塾大学経済学部卒業 1965年2月 メンフィス大学大学院ビジネススクール終了 1965年3～7月 コーネル大学大学院留学（マーケティング研究）
学位	経済学士（慶応義塾大学、1955年3月） MBA（メンフィス大学、1965年2月）
職歴	1955年 雪印乳業入社、チーズ課長、宣伝部長、国際部長等を歴任 1994年 新潟国際情報大学非常勤講師 1995年 新潟国際情報大学専任講師 1998年 新潟国際情報大学助教授
研究分野	①広告管理：1965年「DAGMAR：目標による広告管理」を『電通報』に紹介、実務の上でも実践、1983年企業独自の広告管理モデルを開発・発表。 ②SOV（Share of Voice）：広告管理の投入指標としてのShare of Voice（広告量シェア）の理論を紹介し、また日本における有効性について実証した。 ③新製品計画：1969年に『製品計画の立て方』を出版、実務でも「雪印スライスパック」の開発・市場導入に成功。新潟県製造業の新製品計画を調査。 ④ライフスタイル研究：マーケティング研究の一貫として、ライフスタイル研究に従事、1976年から1993年までライフスタイル研究会のコーディネータ。 ⑤インターネット・マーケティング：最近はインターネットを活用したマーケティング、広告、オンラインショップ等について研究中。
主要業績	<b>著書</b> ①『製品計画のたて方』日本経済新聞社（1969） ②「食品マーケティングとライフスタイル」『ライフスタイル発想法』共著ダイヤモンド社（1974） ③「新製品開発と市場導入計画」『総合マーケティングハンドブック』共著ビジネス社（1982） <b>論文</b> 広告管理： ①「DAGMAR-目標による広告管理」『電通報』（1965） ②「広告の生産性向上に寄与する広告戦略・広告目標の開発」『日経広告研究所報』第150号（1993） ③「アドバタイジング・マネジメントにおける広告投入指標としての広告量シェア」日本広告学会『広告科学』第33集（1996） ④「インターネット・バナー広告の将来性と課題」日本広告学会『広告科学』第39集（1999） 製品計画： ⑤「マーケット・テスト発想に基づくテストマーケティング」『マーケティング・ジャーナル』Vol.54（1995） ⑥『新潟県製造業の新製品開発実態調査』共著 1996年 新潟国際情報大学共同研究 その他： ⑦「チーズ産業形成期のマーケティング」『フードシステム研究』第2巻第2号（1995年）
所属学会	日本マーケティング・サイエンス学会、日本広告学会、日本商業学会 日本フードシステム研究学会



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
学 位  
職 歴

タカギ ヨシカズ

高木 義和 TAKAGI Yoshikazu

男

1949年10月20日生

教授（1996年4月）・情報センター長

E-mail : takagi@nuis.ac.jp

1973年 京都大学農学部食品工学科卒業

農学博士（京都大学、1983年3月）

1973年～1996年 日本たばこ産業株式会社（入社時は日本専売公社）

葉たばこ香気成分の微量化学分析・構造決定・合成に関する研究、研究管理、新規事業のための調査研究、特許の情報管理および出願、喫煙と健康に関する科学情報の管理業務に従事。

研究分野

情報をめぐるさまざまな考え方の中で、情報を人・物・金につづく第4の資源ととらえ、実体としての組織や社会における、有効な情報発信、情報受信、情報管理、情報解析等、情報の価値に関する研究を行っている。

主要業績

論文

- ①「商用データベースおよび検索エンジンを使用した情報リテラシー教育としての情報検索」単著、2002.3  
新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.5、2002
- ②「時系列データによる疾患と食品摂取量の関連の解析」単著、1999.3.19  
新潟国際情報大学情報文化学部紀要、Vol.2、205、1999
- ③「情報資源としてのインターネット」単著、1997.10.14  
第34回情報科学技術研究集会発表論文集、163、1998
- ④「インターネットによる情報検索」共著、1996.10.22  
第33回情報科学技術研究集会発表論文集、53、1997
- ⑤「インターネットにおける情報検索」（情報管理 Vol.38、No.10 Jan. 1996）
- ⑥「水府葉たばこの香気成分に関する研究」（京都大学農学部博士論文 1982）  
その他の文献（<http://www.nuis.ac.jp/~takagi/>を参照）

所属学会

三田図書館情報学会  
情報処理学会  
日本栄養・食糧学会  
日本分類学会

その他

（財）バテルメモリアル研究所 客員研究員（1987）  
情報処理学会情報システムと社会環境研究会運営委員（2001.4～）



氏名	タケナミ テルユキ 竹並 輝之 TAKENAMI Teruyuki
性別	男
生年月日	1941年1月29日生
職名	教授（1994年4月）・情報システム学科長
連絡方法	E-mail：takenami@nuis.ac.jp
学歴	1963年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業 1965年 慶應義塾大学大学院工学研究科管理工学専攻修士課程修了
学位	工学修士（慶應義塾大学、1965年3月）
職歴	1965年（株）東芝入社。情報システムの開発、プロジェクト管理、セールスサポート等に従事、流通・金融システム事業部システム部長、情報処理・制御システム本部システム担当技師長を歴任し、1994年退職。
研究分野	ビジネス情報システムを開発するための、システム分析、設計、開発方法及びシステム開発プロジェクトの管理方法、情報システムの評価方法の研究を通して、良い情報システムとはどのようなものか、使いやすく、役に立つ情報システムはどのように設計すれば良いかを追究する。また、来たるべきネットワーク社会に対応した企業組織の変化、その中における管理者の役割と行動の変化について研究する。
主要業績	著書 ①『多変量解析の基礎』（共訳）サイエンス社（1972） ②『情報システムハンドブック』（共編）培風館（1989） ③『応用システム開発の重点解説』（共著）アイテック（1995） 論文 ①「ソフトウェアの標準化」（共著）NTIS（1979） ②「産業界が期待する情報システム技術者教育について」私学公論（1991） ③「UNIXベースのクライアント/サーバ大規模ビジネスシステムの構築」情報処理学会（共著）（1993） ④「新潟国際情報大学における情報システム教育の現状と課題」（共著）情報処理学会情報システムと社会環境シンポジウム（2001）
所属学会	情報処理学会 三田図書館情報学会



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
学 位  
職 歴  
研 究 分 野

ツキギ コウイチ

槻木 公一 TSUKIGI Kouichi

男

1946年10月9日生

教授 (1994年4月)・情報文化学部長

E-mail : tsukigi@nuis.ac.jp

1971年 東京大学工系大学院航空学修士課程修了

航空学修士 (東京大学、1971年3月)

1993年～1996年 (財) 鉄道総合技術研究所SI 事業推進部長

情報システム分析設計方法論。座席予約システムやTPモニタなどの応用研究と実システムの開発経験を踏まえ、個人・企業・社会などの組織体と情報処理技術が適切に役割分担あるいは相互保管して、融和一体化した情報システムを構築するための方法論を追及する。特に、時空間軸で動的に変化せざるを得ない組織体の活動プロセスを十分に視野にいたれたデザインの枠組みや情報システムのモデル作りを進めている。

## 主要業績

### 著書

- ①『オンラインシステムのソフトウェア』産業図書 (共著) 1977年
- ②『新版データ通信』電子通信学会 (共著) 1979年
- ③『ソフトウェア指向アーキテクチャ』オーム社 (共著) 1985年
- ④『情報システムの分析と設計』培風館 (共訳) 1995年

### 論文

- ①「Distributed processing networks in the seat reservation system of JNR」proceedings of the Canadian Conference on Industrial Computer systems (共著) 1984年
- ②「オンラインシステムのスループットの動作論的解析」情報処理学会論文誌 (共著) 1985年
- 「顧客販売総合システムにおける発売実績データベースの構築」鉄道総合技術研究所報告 1985年

### フィールドワーク等

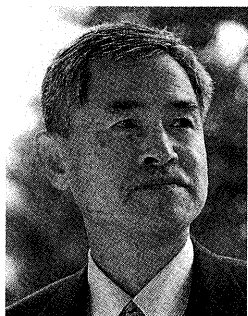
- 特許 (1905460) 指定券発行装置 (共案) 1987年
- 特許 (1444294) 高速出札システム (共案) 1988年
- 特許 (1542849) 端末ファイルの保守方式 (共案) 1990年

## 所属学会

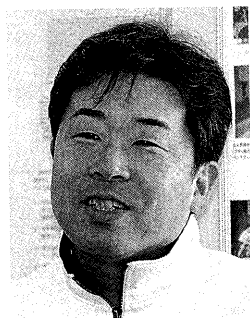
情報処理学会  
人工知能学会

## その他

学会活動：情報処理学会理事 (1995.5～1997.5)  
技術士 (情報処理部門20500)



氏名	ナガイ タケシ 永井 武 NAGAI Takeshi
性別	男
生年月日	1937年12月13日生
職名	教授（1995年4月）
連絡方法	E-mail：nagai@nuis.ac.jp
学歴	早稲田大学第一理工学部金属工学科卒業
学位	工学博士（早稲田大学、1976年2月）
職歴	1981年～1987年 ㈱富士通研究所材料技術部長 1988年～1990年 ㈱富士通研究所管理部長 1991年～1995年 ㈱富士通研究所情報システムセンター長
研究分野	オープンな情報システムの構築 オープンな情報システムの運用
主要業績	<b>著書</b> ①『世界を結ぶ情報ハイウェイ—インターネット入門』富士通経営研修所（1994） <b>論文</b> ①菊池浩明、黒田康嗣、永井武：情報処理学会誌、36巻（1995）、第8号「プライバシー強化メールPEMにおける証明書配布の実装と評価」p.2063. ②共著、コラボレーション研究会編「情報孤島日本の危機」工業調査会（1996） ③永井武、関英基、梶木公一：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第2号（1999）「新潟国際情報大学の就職情報システム」p.237. ④永井武：市政、vol.48（1999）、第3号「ネットワーク社会に向け地方行政ができること」p.21 ⑤永井武、関英基：新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号（2000）「ネットワーク社会に必要な日本および世界の情報通信基盤の状況」p.219.
所属学会	情報処理学会



氏 名 別  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
  
職 歴  
  
研 究 分 野  
主 要 業 績

フジセ タケヒコ  
藤瀬 武彦 FUJISE Takehiko

男

1962年4月22日生

教授 (2002年4月)

E-mail : fujise@nuis.ac.jp

1985年 早稲田大学教育学部教育学科体育学専修卒業

1987年 東海大学大学院体育学研究科体育学専攻修士課程修了

1992年 東海大学大学院医学研究科機能系専攻博士課程修了

体育学修士 (東海大学、1987年3月)

医学博士 (東海大学、1992年9月)

1991年4月～1994年3月 東海大学体育学部非常勤講師

1994年4月～1998年3月 新潟国際情報大学専任講師

1998年4月～ 新潟国際情報大学助教授

体育学 (運動生理学、肥満学)

# 論文

- ① 藤瀬武彦『日本人青年女性における体型の自己評価と理想像 — アジア人及び欧米人青年女性との比較 —』新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第4号、105～122、2001年
- ② 藤瀬武彦・長崎浩爾『青年喫煙者の漸増負荷運動における作業成績及び生理的変量に及ぼす一時的喫煙中止の効果』新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号、187～202、2000年
- ③ 藤瀬武彦・長崎浩爾『青年男女における隠れ肥満者の頻度と形態的及び体力的特徴』体力科学、第48巻第5号、631～640、1999年
- ④ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・山村雅一『持久的運動鍛練者の全身持久力に及ぼす高酸素トレーニングの効果』トレーニング科学、第10巻第2号、87～96、1998年
- ⑤ 藤瀬武彦・杉山文宏・加藤健志・岩垣丞恒・松本正彦・山村雅一『漸増負荷運動時の高濃度酸素吸入が持久的運動鍛練者の作業成績及び生理的変量に及ぼす効果』トレーニング科学、第9巻第2号、31～38、1997年
- ⑥ 藤瀬武彦・杉山文宏・松永尚久・長畑芳仁『一般青年男女における筋力評価尺度としてのバーベル挙上能力測定の試み』体育学研究、第39巻第6号、403～416、1995年
- ⑦ Fujise, T., Terao, T., and Nakano, S.『Effects of endurance training under hyperoxia on serum and tissue lipid levels in rats.』Tokai J. Exp. Clin. Med., Vol.17, No.2, 67～73, 1992
- ⑧ 藤瀬武彦・内山秀一・寺尾 保・中野昭一『ラットの糖・脂質代謝に及ぼす高濃度酸素環境下の持久的トレーニングの影響』体力科学、第40巻第2号、208～218、1991年
- ⑨ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・永見邦篤・中野昭一『短時間最大運動時の酸素摂取が作業成績に及ぼす効果』体育学研究、第35巻第2号、133～142、1990年
- ⑩ 藤瀬武彦・玉木哲朗・寺尾 保・中野昭一『血中乳酸値および酸素負債量による無酸素的運動能力評価法の検討』体力科学、第38巻第3号、85～94、1989年

所 属 学 会

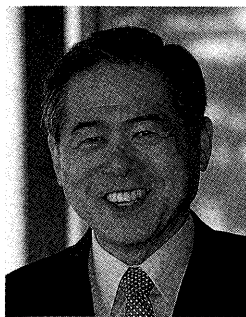
日本体育学会・日本運動生理学会・日本体力医学会

日本肥満学会・日本生理学会

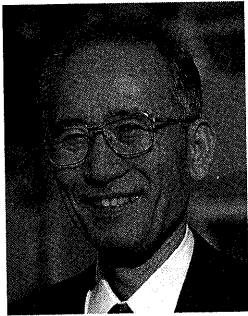
そ の 他

新潟県陸上競技協会医科学学識経験アドバイザー (2001年度～)・新潟県パワーリフティング協会理事 (1998年度～)・新潟県体育学会理事 (1998年度～)・巻町総合体育館建設検討委員会委員 (2001年度)

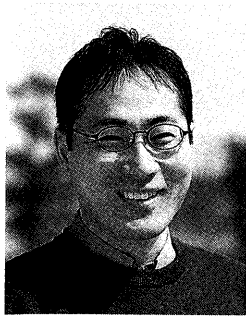




氏名	ムネザワ タクロー 宗澤 拓郎 MUNEZAWA Takuro
性別	男
生年月日	1935年1月16日生
職名	教授（1998年4月）・就職指導委員長
連絡方法	E-mail：munezawa@nuis.ac.jp
学歴	1958年 東京大学工学部応用化学学科卒業 1993年 筑波大学大学院政策科学科修士課程修了
学位	経営学修士（筑波大学、1993年3月）
職歴	1958年～1993年 味の素株式会社 1994年4月～ 新潟国際情報大学助教授
研究分野	1) IT革命と地場産業への貢献 2) i-モード携帯電話を活用したニュービジネスの開発 3) 研究開発マネージメント
主要業績	<b>著書</b> ①『持続的成長のためのマネージメント』（白桃書房（共著） 1996年） ②『情報システムにおける要求工学に関する調査研究』（産業研究所（共著） 1995） <b>論文</b> ①「CVS向け弁当の需要予測」オペレーションズリサーチ誌；38-9、p.477-481（1993） ②“R&D Portfolio management” ,TWAIN'94（1994） ③「情報システムの品質：成功事例」情報処理学会情報システム研究会研究会誌（1995） ④「グローバリゼーションとコアテクノロジー」研究・技術計画学会第10回年次学術大会講演要旨集（1995） ⑤「バーチャル買い物によるデータベース教育」私情協ジャーナル（1996） ⑥「戦略性・独創性を2軸とする研究開発ポートフォリオマネージメント方式の提唱」研究・技術計画学会誌 Vol.11,No.3&4、（1996） ⑦「研究開発マネージメント方法論の提唱」研究・技術計画学会、Vol.11, No.3&4、（1996） ⑧“R&D management for better Performance” PICMET'97,p.516-519（1997） ⑨「新潟県製造業の新製品開発に関する調査」、中央大学経済研究所年報、第20号、p199-224、（1998） ⑩「新製品がつくる新文化」新潟国際情報大学情報文化学部紀要、（2000） ⑪“Proposal of “Culturability” ,as an Index of R&D” PICMET'99,（1999） ⑫「高齢者はどんな情報を求めているのか？ー心のバリアフリーを目指してー」情報システムと社会環境、77-7、共著（2001） ⑬“InterMediator agent to obtain “Condensed Information” for “i-business””, PICMET'01,（2001）
所属学会	化学工学会 研究・技術計画学会 日本OR学会 情報処理学会 組織科学会 Association of Information Systems
その他	ハーバード大学ビジネススクール短期コース（1985年） 産業情報化推進センター：ユーザー問題等検訴委員会委員長 信越情報通信懇談会：新世代情報通信網委員会副委員長



氏名	渡辺 忠 WATANABE Tadashi
性別	男
生年月日	1939年2月11日生
職名	教授 (1994年4月)
連絡方法	E-mail : watanabe@nuis.ac.jp
学歴	1961年 北海道大学理学部数学科卒業 1966年 防衛大学校理工学研究科電子工学専攻課程修了 1970年 上智大学大学院経済学研究科修士課程修了
学位	経済学修士 (上智大学、1970年3月)
職歴	1984年 防衛庁陸上幕僚監部分析室長 (2年4ヶ月) 1988年 防衛庁統合幕僚監部分析室長 (3年)
受賞歴	日本オペレーションズ・リサーチ学会フェロー 1994年4月
研究分野	オペレーションズ・リサーチ (OR) 地域のOR、行政のOR、軍事のOR
主要業績	著書 ①『初等ORテキスト』日科技連出版社 (共著) 1972年 ②『ORワークブック』日科技連出版社 (共著) 1984年 論文 ①「災害における輸送の問題」(共著) 日米ORセミナー 1989年 ②「21世紀における防衛のあり方」(共著) 防衛庁ORセミナー 1990年 ③「戦闘シミュレーションについて」(単著) 陸戦研究 12月号 17—34 1993年
所属学会	日本オペレーションズ・リサーチ学会 経営情報学会 日本シミュレーション学会



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
  
学 位  
  
職 歴  
研 究 分 野  
  
主 要 業 績

アダチ タクミ

安達 巧 ADACHI Takumi  
男

1966年4月15日生

助教授（2001年4月～）

E-mail : adati@nuis.ac.jp

早稲田大学商学部卒業

東北大学大学院法学研究科博士前期課程私法学専攻修了

東北大学大学院経済学研究科博士後期課程経営学専攻修了

修士（法学、東北大学、1997年3月）

博士（経済学、東北大学、1999年3月）

前歴：シンクタンク研究員（役職：課長代理）

企業会計制度（含、公認会計士制度）、コーポレート・ガバナンス

会計情報システム、ファイナンス、企業再生

著書

- ①『個人投資家層の拡大—株式市場の活性化に向けて—』（月刊資本市場 別冊）担当部分：31—52頁（共著）2000年12月 財団法人資本市場研究会
- ②『監査人としての公認会計士の責任—英米の先例に学ぶ対第三者責任明確化への方向性—』（単著）2002年3月 雄松堂書店。

学術論文

- ①「日本コッパース事件と商法学者の見解—監査基準の適用範囲及び免責能力の検討を中心に—」（単著）1997年6月 東北大学経済学会 研究年報『経済学』第59巻第1号 105—118頁
- ②「監査基準と公認会計士の責任—日本コッパース事件を契機として—」（単著）1997年6月 東北大学大学院法学研究科院生会『東北法学』第15号 73—133頁
- ③「監査基準見直しの視点—企業会計審議会の問題点を探りつつ—」（単著）1997年10月 東北大学経済学会 研究年報『経済学』第59巻第2号 81—94頁
- ④「イギリス会社法における『真実かつ公正な概観』について—法律解釈に向けての一つの覚書—」（単著）1998年7月 東北大学大学院法学研究科院生会『東北法学』第16号 401—420頁
- ⑤「会計士の対第三者責任の範囲—アメリカの判例を手がかりとして—」（単著）1998年9月 東北大学経済学会 研究年報『経済学』第60巻第2号 113—127頁
- ⑥「経営者不正の発見に関する監査人の責任—AICPAのSAP及びSASを手がかりとして—」（単著）1998年11月 東北大学経済学会 研究年報『経済学』第60巻第3号 125—139頁
- ⑦「英米における監査人の役割の拡大—公認会計士の責任の明確化に向けて—」（単著）1999年1月 東北大学経済学会 研究年報『経済学』第60巻第4号 91—109頁
- ⑧「会計士監査における経営者不正の発見と監査人の責任—監査論（会計学的考察を踏まえての検討—」（単著）1999年2月 東北大学大学院法学研究科院生会『東北法学』第17号 1—33頁
- ⑨「わが国における連結会計制度の現状と課題」（単著）2000年10月 信山社『法政策学の試み—法政策研究』第三集 109—128頁
- ⑩「市場立脚型コーポレート・ガバナンスへの転換と会計士監査への期待—銀行等保有株式取得機構の設立を契機として—」（単著）2002年3月 日本監査研究学会編『現代監査』第12号、中央経済社。

所 属 学 会

日本会計研究学会、日本ファイナンス学会、情報処理学会、経営情報学会  
日本監査研究学会、日本私法学会、税務会計研究学会



氏 名 石井 忠夫  
性 別 男  
生 年 月 日 1955年11月3日生  
職 名 助教授 (2001年4月)  
連 絡 方 法 E-mail : isii@nuis.ac.jp  
学 歴 1980年 山形大学工学部電子工学科卒業  
2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報処理学専攻博士後期課程修了  
学 位 工学修士 (山形大学、1982年3月)  
博士 (情報科学 北陸先端科学技術大学院大学、2000年3月)  
職 歴 1982年 日立製作所(株)入社、計測器事業部 (旧、那珂工場) において、理化学  
分析装置のコンピュータソフトウェア設計開発に従事。主に、蛍光/分光光度  
計、液体クロマト分析装置等の製品を担当し、1989年に同社の技師、1994年  
に退社。  
2000年 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科教務補佐員、重点領域研  
究「発展機構を備えたソフトウェアの構成原理の研究」に対して、構成的型理  
論の枠組みで形式化を検討。

#### 研究分野

- 1) 数理論理学の研究対象として、現在、非標準論理 (直観主義論理、様相論理、多値論理、線形論理、知識と信念の論理等) が中心であるが、これらの各種論理体系と情報文化或は情報システムの中に現れる論理的对象の関係について調べることで、非標準論理についての新しい知見を得る。
- 2) 近年における情報化社会進展の基盤は、一つにはコンピュータを中心とした情報システム、特に、ソフトウェアの改良や発展の成果であると思われる。ソフトウェアはコンピュータに対して、有限の時間で停止する動作手順 (アルゴリズム) を指示する命令書であり、実現したい機能要求から如何にして命令書に翻訳するかが問題となる。従来、この分野に関連してソフトウェアのモデル化技法、及び検証や合成等があるが、このソフトウェアについて論理的観点から検討する。

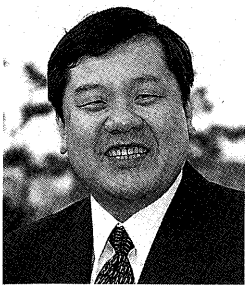
#### 主要業績

##### 論文

- ① Propositional calculus with identity, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.27, Nr.3, 1998, pp.96-104.
- ② A note on varieties of PCI-algebras with EDPC, Bulletin of the Section of Logic, University of Łódź, vol.28, Nr.2, 1999, pp.75-81.
- ③ Nonclassical logics with identity connective and their algebraic characterization, March 2000, Doctoral thesis, JAIST.
- ④ Propositional calculus with identity, Proceedings of the 31st MLG meeting at Miho, Shimizu, November 24-26, Japan 1997, pp.22-24.
- ⑤ Modality, implication and identity, XLV History of Logic Conference, October 26-27, Jagiellonian University, Krakow, Poland 1999.
- ⑥ An Extension of Martin-Löf's Type Theory with an Evolution Relation, Proceeding of the 34th MLG meeting at Echigo-Yuzawa, January 9-12, Japan 2001, pp.33-37.

#### 所属学会

日本数学会  
日本ソフトウェア科学会  
情報処理学会



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴

クワハラ サトル  
桑原 悟 KUWAHARA Satoru  
男

1956年7月15日生

助教授（2001年4月）

E-mail : kuwahara@nuis.ac.jp

1977年3月 東京都立工業高等専門学校機械工学科卒業

1981年3月 東京農工大学工学部数理情報工学科卒業

1983年3月 東京農工大学大学院工学研究科修了

学 位  
職 歴

工学修士（東京農工大学、1983年3月）

1983年4月～2000年6月：三菱電機株式会社 情報システム技術センタ 専任

2000年7月～2001年3月：KPMGビジネスアシュアランス株式会社 シニアマネージャ

研 究 分 野

情報セキュリティ。情報化社会の充実には、テクノロジーの発展とそれを実社会で利用するフレームワークの構築が重要である。特にインターネットのようなオープンネットワークにおいて、個人や組織の情報の完全性、可用性、機密性を確保するためのテクノロジーと利用のためのフレームワークについて研究を行っている。

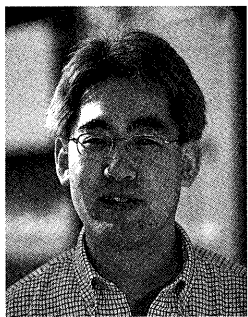
主 要 業 績

論文

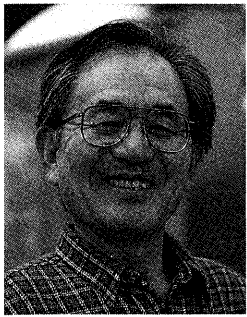
- ①「セキュリティ技術調査報告」共著 1996.3 日本CALS研究組合報告書 日本CALS研究組合 紙田、桑原 他
- ②『JapanNet 認証サービスを利用した社内情報システム』共著 1998.5 三菱電機技報Vol.72 No.5 三菱電機株式会社 桑原、遠藤
- ③「三菱電機におけるインターネットを利用した企業間連携システムのセキュリティの実際」日本テクノセンター セミナー講演 1999年
- ④「社内認証局を設置し、グループ企業にデジタル認証書を発行」共著 2000.1（財）関西情報センタ機関紙（財）関西情報センタ 桑原、中村
- ⑤『EC・セキュリティソリューション』2000.4 三菱電機技報Vol.74 No.4 三菱電機株式会社 佐々木、桑原 他
- ⑥『組織の情報セキュリティ実現のための組織内外の役割とその遂行に必要な教育に関する検討』単著 2001.9 情報処理学会第63回全国大会 情報処理学会 桑原

所 属 学 会  
そ の 他

情報処理学会  
米国公認情報システム監査人



氏名	ツカダ シンイチ 塚田 真一 TSUKADA Shinichi
性別	男
生年月日	1970年2月23日生
職名	助教授 (2002年4月)
連絡方法	E-mail : tukada@nuis.ac.jp
学歴	1993年 中央大学理工学部数学科卒業 1995年 中央大学大学院理工学研究科数学専攻修士課程修了 1998年 中央大学大学院理工学研究科数学専攻博士後期課程修了
学位	理学修士 (中央大学、1995年3月) 博士 (理学) (中央大学、1998年3月)
職歴	1998年4月～1999年3月 文部省・統計数理研究所中核的研究機関研究員 1998年4月～1999年3月 中央大学理工学部共同研究員 1999年4月～2000年3月 工学院大学工学部非常勤講師 1998年4月～2002年3月 東京医科歯科大学大学院医学系研究科非常勤講師 1998年4月～2002年3月 新潟国際情報大学専任講師 1998年4月～ 明星大学日野校舎非常勤講師 2000年4月～ 新潟大学理学部非常勤講師 2001年4月～ 埼玉学園大学非常勤講師
受賞歴	日本計算機統計学会 奨励賞 受賞 (1999年)
研究分野	専門は多変量統計解析です。分散共分散行列の固有ベクトルの仮説検定問題について研究しています。今まではパラメトリックな方法を研究し、検定統計量の近似分布の導出や検出力の検討を行ってきました。多変量解析ではいろいろな統計量の分布が実用的な形で求まらないこともあり、そのような場合に有効な方法が漸近展開による分布の近似です。このような分布の近似やノンパラメトリックな検定にも興味があります。
主要業績	論文 ①Tsukada, S. (1998) 「Three statistics for hypothesis testing of intermediate latent vector of covariance matrix and their bootstrap tests,」 (Journal of the Japan Statistical Society, 28 (2) 163-174) ②Tsukada, S. (1999) 「Wald criterion for several latent vectors of covariance matrices」 (Bulletin of the International Statistical Institute, Contributed Papers,52nd Session, Volume 2.) ③塚田真一・牛沢賢二 (2000) 「分散共分散行列の固有ベクトルに関するある検定統計量の帰無分布の漸近展開」 (産能大学紀要, 第21巻 (1) 21-35)
所属学会	日本統計学会 日本計算機統計学会 日本数学会 American Statistical Association Institute of Mathematical Statistics
その他	2001年4月～日本計算機統計学会 評議員／広報・ネットワーク委員



氏 名  
性 別  
生 年 月 日  
職 名  
連 絡 方 法  
学 歴  
学 位  
職 歴

ヒグチ ミツアキ  
樋口 光明 HIGUCHI Mitsuki  
男  
1937年9月3日生  
助教授（1998年4月）  
E-mail : hig@nuis.ac.jp  
1961年 九州大学理学部数学科卒業  
理学士（九州大学、1961年3月）  
1961年4月～1986年3月 旭化成工業株式会社  
1987年 旭化成情報システム株式会社出向  
1991年 延岡コンピュータ・アカデミー出向  
1996年4月～ 新潟国際情報大学専任講師

研 究 分 野

情報処理システムの設計全般。上流工程（フィジビリティスタディ）から下流（プログラミング）まで。特に最近は人工知能、その中でもエキスパートシステムの設計・開発。ここ数年は遺伝的アルゴリズムを用いたスケジューリング問題の解法。

主 要 業 績

著書

- ①『農業分野におけるエキスパートシステム適用可能性』旭リサーチセンター 1988年

論文

- ①「多品種少量生産向上の製造スケジューリングに対するGAの適用」 情報処理学会 1995年  
②「遺伝的アルゴリズムのフライトスケジューリング問題への適用」 電子情報通信学会 1996年  
③「変則遺伝的アルゴリズムによる新潟県の衆議院議員選挙（小選挙区）の選挙区分割についての試案」 1998年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第1号 217～231頁  
④「An Application of the Genetic Algorithm to Scheduling Problems Using the Concept of Differential Penalty.」 1996年9月 Second Joint Conference on Knowledge-Based Software Engineering. 202～205頁  
⑤「『組合わせ問題』に適用する遺伝的アルゴリズム ～交叉不使用の意味するもの～」 単著 2000年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第3号241～253頁  
⑥「Applying of Character Preserving Mutation to Scheduling Problem」 2000年9月 Knowledge Based Software Engineering 59～64頁  
⑦「形質遺伝を重視した突然変異の提案とその有効性」 2001年3月 新潟国際情報大学情報文化学部紀要、第4号123～135頁

所 属 学 会

情報処理学会  
人工知能学会



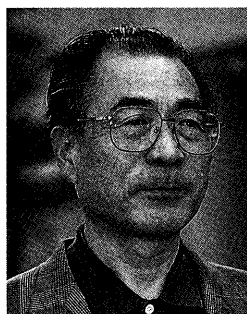


氏 名	マツイ タカオ 松井 孝雄 MATUI Takao
性 別	男
生 年 月 日	1963年6月29日生
職 名	助教授（1998年4月）
連 絡 方 法	E-mail : mat@nuis.ac.jp
学 歴	1986年 京都大学教育学部教育心理学科卒業 1989年 北海道大学大学院文学研究科行動科学専攻修士課程修了 1992年 慶應義塾大学大学院社会学研究科心理学専攻後期博士課程単位取得退学
学 位	1997年2月 博士（心理学）（慶應義塾大学）
職 歴	1992年～1994年 慶應義塾大学非常勤講師（心理学実験） 1994年～1998年 新潟国際情報大学専任講師
受 賞 歴	1996年6月 日本認知科学会大会発表賞
研 究 分 野	専攻は認知科学および認知心理学で特に人間の非言語的認知の性質に興味をもっている。これまでの主な研究テーマは以下の通り。 ・空間認知の異方性（個人研究および国内共同研究） ・潜在学習と意識的処理の関係（個人研究および国内共同研究） ・ネットワークコミュニケーションに対する認知特性の影響（学内共同研究および国内共同研究）
主 要 業 績	著書 ①『日常認知の心理学』井上・佐藤（編著）2002年 北大路書房 ②『イメージと認知』乾・安西（編）2001年 岩波書店 ③『グラフィック認知心理学』森敏昭・井上毅・松井孝雄 1995年 サイエンス社 論文 ①「身体周囲の空間に対する空間認知」加藤健二・松井孝雄 1998年 認知科学、5（3）、5-14 ②「空間認知における異方性の研究」松井孝雄 1997年 慶應義塾大学大学院社会学研究科博士論文 ③「潜在学習」村越真・松井孝雄 1995年 認知科学、2（3）、12-23 ④「対称性判断における参照枠と知覚統合」松井孝雄・小谷津孝明 1992年 基礎心理学研究、11、1-8
所 属 学 会	日本認知科学会 日本心理学会 日本教育心理学会 日本基礎心理学会 日本イメージ心理学会
そ の 他	1995年9月・1997年3月 通産省工業技術院電子技術総合研究所流動研究員 1996年～1997年 文部省放送教育開発センター共同研究員 1999年～ 文部省メディア教育開発センター研究協力者 1996年3月～2000年11月 日本認知科学会編集委員 1999年1月～ 日本認知科学会運営委員

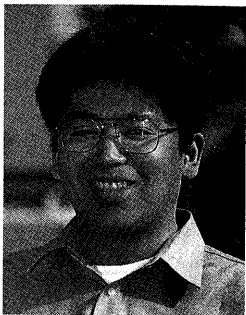




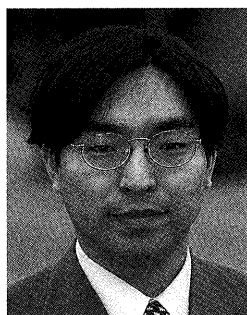
氏名	山口 直人 YAMAGUCHI Naoto
性別	男
生年月日	1957年3月31日生
職名	助教授（1999年4月）
連絡方法	E-mail : yamaguti@nuis.ac.jp
学歴	1979年 慶應義塾大学工学部管理工学科卒業 1996年 東京工業大学大学院社会工学専攻博士課程修了
学位	工学修士（東京工業大学、1992年3月）
職歴	1979年4月～1999年3月 宇都宮市役所勤務 1991年～1993年 東京工業大学工学部非常勤講師 1996年～日本女子大学人間社会学部非常勤講師
研究分野	専門は、計画学、コンピュータによるデータ解析および都市システム理論ですが、データ解析の純粋な理論を研究するのではなく、現実のデータを用いての実証研究です。長年、行政実務を行って来ましたが、都市計画という立場で、都市や地域をデータによって解析するという仕事を中心でした。政策を立案して検討・協議することを科学的に行うために、都市システムモデルというものを学び、都市シミュレータを作成して来ましたが、当時はコンピュータ単体上で単独で動かすものだったために、行政の現場に定着することは難し状況でした。その後、その都市シミュレータを中心として、データベースやプレゼンテーションツールを統合し、さらにネットワークシステムとして、多くの人（担当者）が使えるようにするための研究をして来ましたが、これからは、行政庁内のシステムから地域社会へも範囲を広げて、地域の人たちと接しながら、行政計画を立案し策定するシステムを研究したいと考えています。
主要業績	<b>論文</b> ①熊田、兼田、五十嵐、山口（1990）「Gaming/Simulation to Create Planning Culture」ISAGA/NASAGA ②山口（1991）「地方自治体における計画策定支援システムの整備方策」日本都市情報学会 ③山口（1991）「地方都市における住民の居住環境評価の構造と空間分布」日本地域学会 ④山口、五十嵐（1993）「計画策定支援型都市情報システムの核としての都市システムモデルの開発に関する研究」日本都市情報学会 <b>調査報告書</b> ①宇都宮市（1986）「宇都宮市の将来人口（試算）」 ②宇都宮市（1988）「公共施設整備の現状と期待水準の試算」 ③宇都宮市、日本計画行政学会（1992）「宇都宮市計画策定支援システム整備報告書1」
所属学会	日本統計学会 日本地域学会 人文地理学会 日本都市計画学会 日本社会情報学会 地理情報システム学会



氏名	大山 毅 OHYAMA Takeshi
性別	男
生年月日	1940年3月2日生
職名	講師（1994年4月）
連絡方法	E-mail : ohyama@nuis.ac.jp
学歴	1964年 神奈川大学工学部応用化学科卒業
学位	学士（工学、1964年3月）
職歴	1964年4月～1966年2月 川口化学工業株式会社 1966年4月～1994年3月 慶應義塾大学理工学部
研究分野	人間工学の立場から人間の特性およびその測定方法について研究しています。 また、職場や家庭など生活のあらゆる場面において、人間が「快適」であるための条件を探り、「快適」であることを実現することをめざしています。
主要業績	<b>論文</b> ①「四日市コンビナートの事故におけるヒューマンエラーの分析」（共著） （1990.12.12, Technical Report No.90003, Department of Administration Engineering Faculty of Science and Technology Keio University） ②「超音波探傷における作業姿勢の影響」（共著）（日本設備管理学会誌 Vol.5 No.1, 8-15,1993） ③「手動制御系における予測情報の効果」（人間工学 Vol.29 No.5,313-319,1993） ④「コンビナートにおけるヒューマンエラーの相関分析」（1993.4.2, Technical Report No.93004, Department of Administration Engineering Faculty of Science and Technology Keio University） ⑤「反応時間に関する一研究」（1993.5.10, Technical Report No.93009, Department of Administration Engineering Faculty of Science and Technology Keio University）
所属学会	日本人間工学会 バイオメカニズム学会 日本設備管理学会 情報文化学会
その他	日本人間工学会評議員



氏名	河原 和好 KAWAHARA Kazuyoshi
性別	男
生年月日	1969年9月8日生
職名	講師（1999年4月）
連絡方法	E-mail：kawahara@nuis.ac.jp
学歴	1993年 信州大学工学部情報工学科卒業 1995年 信州大学大学院工学系研究科博士前期課程情報工学専攻修了 1998年 信州大学大学院工学系研究科博士後期課程システム開発工学専攻修了
学位	博士（工学）（信州大学、1998年3月）
職歴	1998年4月～1999年3月 岐阜大学バーチャルシステム・ラボラトリー非常勤研究員
研究分野	画像処理に関する研究。ファジィ理論の画像処理への応用（個人研究）、医療用画像処理（国内共同研究）、3次元画像処理（個人研究）。
主要業績	論文 ①「ファジィテンプレートを基にしたファジィ位相とその画像処理への応用」（共著）、1994年2月、信州大学工学部紀要 第74号、pp.113-122 ②「FINITE TOPOLOGY BASED ON FUZZY TEMPLATES AND ITS APPLICATIONS」（共著）、1994年11月、Proc.of the 1st MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、PP.461-464 ③「Image Processing with Fuzzy Set Theory」（共著）、1995年12月 Second Asian Conference On Computer Vision(ACCV'95)、Vol. I pp.494-498 ④「ファジィ理論を用いた画像処理」（共著）、1997年1月、電子情報通信学会論文誌 D-Ⅱ、Vol.J80-D-Ⅱ、No.1、pp.166-174 ⑤「Image Processing using Mathematical Morphology and Topology with Fuzzy Set」（共著）、1997年12月、Proc.of International Symposium on Nonlinear Theory and its Applications（NOLTA'97）、Vol.2、pp.1013-1016 ⑥「Fuzzy Image Processing with Topological Theory」（共著）、1997年12月 Proc.of IEEE TENCON'97（IEEE Region 10 Annual Conference）Speech and Image Technologies for Computing and Telecommunications、Vol.1 pp.333-334 ⑦「Edge Analysis of Digital Mammogram」（共著）、1999年10月、Proc.of 2nd MAGNETO-ELECTRONICS International Symposium、pp.339-342
所属学会	電子情報通信学会 医用画像学会



氏 名	コミヤマ サトシ 小宮山 智志 KOMIYAMA Satoshi
性 別	男
生 年 月 日	1969年5月3日生
職 名	講師 (2000年4月)
連 絡 方 法	E-mail : komiyama@nuis.ac.jp
学 歴	1994年 中央大学文学部社会学科卒業 1996年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了 1999年 中央大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程中退
学 位	社会学修士 (中央大学、1996年3月)
職 歴	1999年 中央大学文学部社会学科非常勤講師
研 究 分 野	専門は社会学です。主に統計的な社会調査によって得られたデータを分析し、以下のようなテーマに取り組んでおります (少数事例調査や第二次資料を用いた研究なども行っています)。 1) 人々の多様な意識のバリエーションとその生成の仕組みを明らかにすること 2) 多様な意識をもつ人々が混在する社会における制度・慣習等についての合意可能性 3) 制度・慣習等が人々の意識・行動に与える影響
主 要 業 績	論文 ① 「Perception of “effort,” “Ability,” and “Equal Opportunity” in Japanese Society」 (M.Miyano (ed.) Japanese Perception of Social Justice:How Do They figure out What Ought to Be,Minsitry of Education,Sports and Culture Grant-in-Aid for Scientific Research (B) Report,09410050,2000 pp.87-100) ② 「不公平感の地域格差におけるマルチレベル分析の応用」 (紀要 中央大学文学部社会学科第10号 pp.199-213 2000年) ③ 「消費税・所得税に関する世論についての試論的研究」 (社会科学研究所年報 第3号 pp.67-79 1999年) ④ 「日本の公正地図」 (宮野勝[編]『公平感と社会階層』 科研報告書 pp.195-214 1998年) ⑤ 「高齢者自殺率の都道府県格差を説明するモデルの構築」 (大学院研究年報 第27号 pp.159-174 1998年) ⑥ 「新聞における公正」 (宮野勝[編]「日本人の公正観」 中央大学社会科学研究所報告書 第17号 pp.193-202 1996年) ⑦ 「公正観の深層理解:自由面接データの分析」 (宮野勝[編] 社会的公正の研究:理論実証・応用 科研報告書 pp.154-165 1996年)
所 属 学 会	数理社会学会 日本社会学会 関東社会学会 日本行動計量学会



氏名	ササキ トウコ 佐々木 桐子 SASAKI Toko
性別	女
生年月日	1972年2月22日生
職名	講師 (2001年4月)
連絡方法	E-mail : tohko@nuis.ac.jp
学歴	1994年 東洋大学経営学部経営学科卒業 1996年 東洋大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了 1996年4月～1998年3月 名古屋大学大学院経済学研究科大学院研究生 2001年 名古屋大学大学院人間情報学研究科博士後期課程満期退学 経営学修士 (東洋大学、1996年3月)
学位	
職歴	
研究分野	より大規模かつ複雑化する生産・ロジスティクスシステムを対象とし、シミュレーション技術を応用した詳細かつ柔軟なモデル構築および解析を行っている。構築したモデルに、既存企業の“as-is”, “to-be” の生産・ロジスティクスシステムに関するデータを入力し、より詳細な比較・検討を行う。
主要業績	論文 ①「ロジスティクスにおけるリエンジニアリング」『東洋大学大学院紀要』第32集、pp.111-137、1995。 ②「配車・費用を考慮したロジスティクスシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18,No.4-2,pp.99-102,1997。 ③「生産・物流システムシミュレーションのモデル化と解析」『オフィス・オートメーション』Vol.18,No.4-2,pp.133-136,1998。 ④「ロジスティクスシステムのシミュレーションモデリングと解析」『オフィス・オートメーション』Vol.20,No.3,pp.76-82,2000。 ⑤ “A Module-Based Simulation Modeling and Management for Supply Chain Systems on Daily Commodities”, Studies in Informatics and Sciences, No.13, pp.81-89, 2001.
所属学会	オフィス・オートメーション学会 日本生産管理学会 日本経営システム学会

## 新潟国際情報大学研究者総覧 2002

2002年4月発行

編集：新潟国際情報大学 総務課

発行：新潟国際情報大学

新潟市みずき野3丁目1番1号 〒950-2292

TEL.025-239-3111

FAX.025-239-3690





新潟国際情報大学

Niigata University of International and Information Studies